

令和 6 年度版『小学社会 5』年間指導計画・評価計画（案）

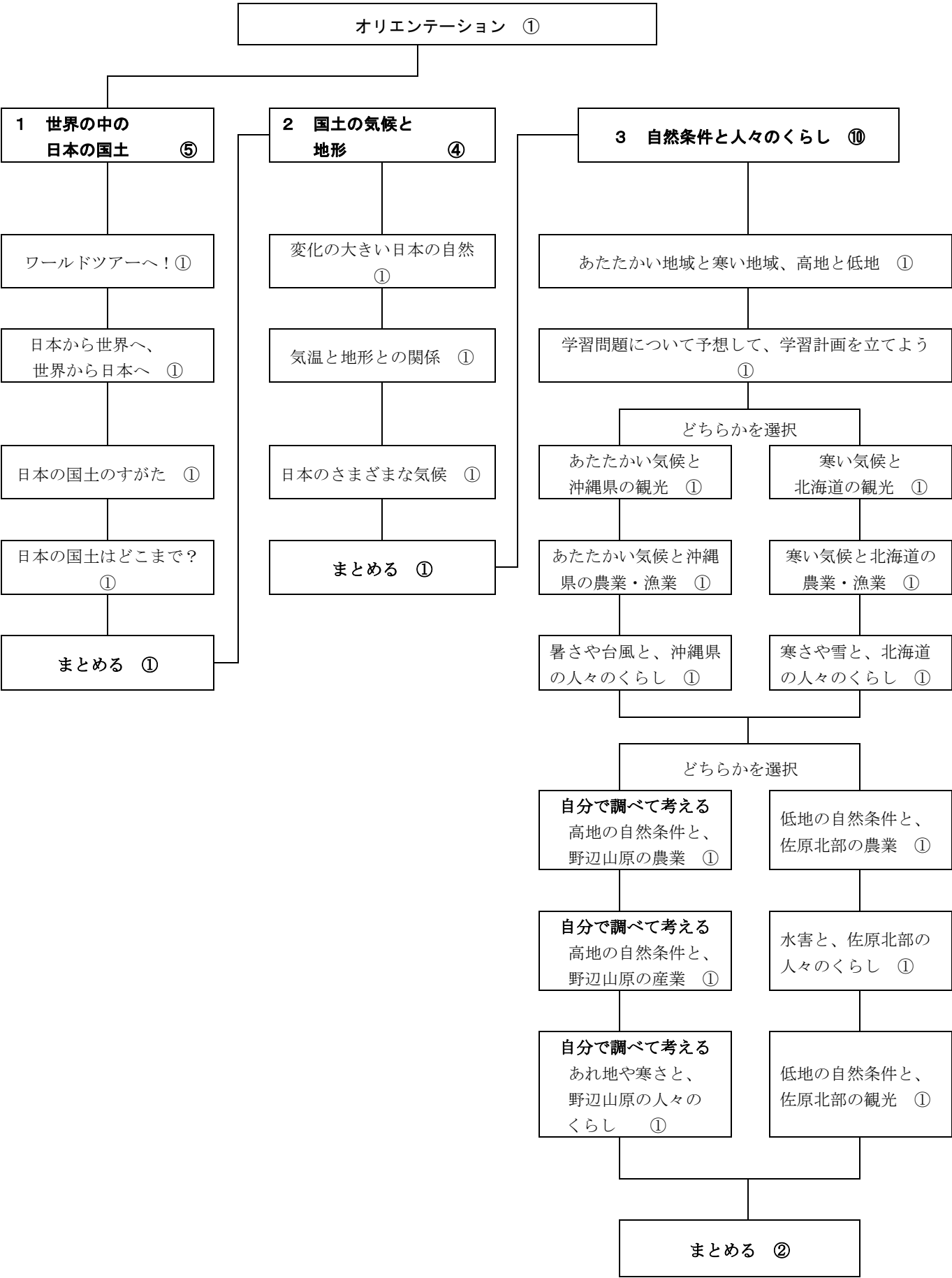
大単元 1	日本の国土とわたしたちの暮らし	配当時間 20 時間	教科書 5 P8～59
-------	-----------------	------------	----------------

目 標

- 我が国の国土の地理的環境の特色について、国民生活との関連を踏まえて理解するとともに、地図帳や地球儀、統計などの各種の基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- 我が国の国土の地理的環境の特色や国民生活との関連を多角的に考える力、考えたことを説明する力を養う。
- 我が国の国土の地理的環境の特色や国民生活との関連について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、我が国の国土に対する愛情を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・世界における我が国の国土の位置、国土の構成、領土の範囲などを大まかに理解している。 ・我が国の国土の地形や気候の概要を理解するとともに、人々は自然環境に適応して生活していることを理解している。 ・地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめている。	・世界の大陸と主な海洋、主な国の位置、海洋に囲まれ多数の島からなる国土の構成などに着目して、我が国の国土の様子を捉え、その特色を考え、表現している。 ・地形や気候などに着目して、国土の自然などの様子や自然条件から見て特色ある地域の人々の生活を捉え、国土の自然環境の特色やそれらと国民生活との関連を考え、表現している。	・我が国の国土の様子と国民生活について、主体的に問題解決しようしたり、多角的に考えようとしたりしている。



○の中の数字は、配当時数。

小单元 1	世界の中の日本の国土	配当時間 5 時間	教科書 5 P10～19
-------	------------	-----------	-----------------

目 標

- 世界における我が国の国土の位置、国土の構成、領土の範囲などを理解するとともに、地図帳や地球儀などの各種の基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- 我が国の国土の位置や構成などの特色を多角的に考える力、考えたことを説明する力を養う。
- 我が国の国土の位置や構成などについて、主体的に調べようとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、我が国の国土に対する愛情を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・世界の大陸と主な海洋、主な国の位置、海洋に囲まれ多数の島からなる国土の構成などについて地図帳や地球儀、各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、我が国の国土の様子を理解している。 ・調べたことを文や白地図などにまとめ、世界における我が国の国土の位置、国土の構成、領土の範囲などをおおまかに理解している。	・世界の大陸と主な海洋、主な国の位置、海洋に囲まれ多数の島からなる国土の構成などに着目して、問いを見いだし、我が国の国土の様子について考え表現している。 ・世界の大陸と主な海洋、主な国の位置、国土の構成、領土の範囲などを総合して、我が国の国土の特色を考え、適切に表現している。	・日本と世界の国々との位置関係や国土の様子について、予想や学習計画を立て、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。 ・学習したことをもとに、日本の国土の広がりについて考えようとしている。

大単元名： 1 日本の国土とわたしたちのくらし 【配当 1 時間】

【態】＝主体的に学習に取り組む態度、【知技】＝知識・技能、【思判表】＝思考・判断・表現
(発)＝発言・発表、(行)＝行動観察、(ノ)＝ノート・作品、(テ)＝テスト

ページ	本時のねらい	○主な学習活動／◆学習内容	本時の学習活動	評価規準/評価方法
＜オリエンテーション＞ P8～9 【配時 1】	世界地図と地球儀に示された、世界の国々や大陸・海洋の広がり・位置に着目して、その違いから、世界地図と地球儀それぞれの特性を捉える。	○世界地図や地球儀などを使って、日本や世界の国々、大陸、海洋について自由に調べ、地図と地球儀のそれぞれの特徴についても話し合う。 ◆地球儀は面積・方位・距離などを正しく表すことができ、地図は世界全体を一度に見渡すことができること。	①第 4 学年の社会科での日本地図の読み取りをふり返ったあと、世界地図を見て、日本や知っている国々を探す。 ②違う視点から日本の国土を眺めた地図を見て、気づいたことや感想を話し合う。 ③地球儀を見て、日本や知っている国々の位置、陸地や海の広さなどを読み取ったあと、地図との違いについて話し合う。	【知技】世界地図や地球儀を使って、日本の国土や世界の国々の位置などを読み取り、それぞれの資料の特性を捉えている。(発)(ノ)

小単元名： 1 世界の中の日本の国土 【配当 5 時間】

【態】＝主体的に学習に取り組む態度、【知技】＝知識・技能、【思判表】＝思考・判断・表現
(発)＝発言・発表、(行)＝行動観察、(ノ)＝ノート・作品、(テ)＝テスト

ページ	本時のねらい	○主な学習活動／◆学習内容	本時の学習活動	評価規準/評価方法
ワールドツアーへ！ P10～11 【配時 1】	世界地図や地球儀を活用して、世界の大陸と主な海洋、主な国の名称と位置について知る。	○地図や地球儀を読み取り、世界遺産や名所を巡る「ワールドツアー」の行程を考え、世界の大陸や主な海洋、主な国の名称と位置を確かめる。 ◆世界には主に六つの大陸と三つの海洋があり、さまざまな国があること。	①地図帳などを参考に、行きたい国を決め、地球儀上で順になぞる。その際、行った国や通った大陸・海洋の名称もおさえる。その行程は、ノートやワークシートに書く。 ②それぞれ考えた行程を、地球儀をなぞりながら発表し合う。 ③発表に出てきたものを中心に、大陸や海洋、主な国の名称と位置について、地球儀を見ながら全体で確認する。ノートやワークシートに整理する。	【知技】世界の大陸と主な海洋、主な国の名称と位置を地球儀や地図からの的確に読み取っている。(発)(ノ)
日本から世界へ、世界から日本へ P12～13 【配時 1】	地球儀を活用し、世界の国々や大陸・海洋と日本との位置関係に着目して、日本の国土の広がりについての学習問題をつくり、追究の見通しをもつ。	○日本と世界の国々との位置関係を地球儀で調べ、疑問やさらに調べたいことを整理して、学習問題をつくる。 ◆地球上の位置は緯度や経度で表されること、地球儀上での距離や方位の読み取り方。	①地球儀を活用し、様々な国と日本とのおおまかな距離を調べ、わかったことをノートなどに整理する。 ②地球儀を活用し、日本から見た様々な国の方位を調べ、わかったことをノートなどに整理する。 ③緯度・経度の意味を確認し、日本と世界の国々の位置について緯度や経度を使って調べ、ノートなどに整理する。 ④さらに知りたいことや疑問を出し合って整理し、学習問題をつくる。予想や学習計画を話し合う。	【思判表】地球儀から日本と世界の国々との位置関係を読み取り、それをもとに日本の国土についての学習問題をつくり、表現している。(発)(ノ) 【態】日本と世界の国々との位置関係を予想し、それをもとに学習計画を立て、主体的に追究しようとしている。(発)(ノ)
学習問題 世界の中で、日本の国土はどのように広がっているのだろう。				

日本の国土のすがた P14～15 【配時1】	日本の国土を形成する島々や、東西南北の端などに着目して、日本の国土のおおまかな構成を捉える。また、日本の周辺諸国にも着目して、国旗を尊重する態度を養う。	○日本の国土の位置や形、東西南北の端や周りの国々の名称、国旗などを地図資料や写真から読み取り、国土の範囲について調べる。 ◆日本の国土は多くの島々が連なり、離れた島まで含めると東西にも南北にも広い範囲にあること、日本を構成する主な島々、東西南北の端の位置と名称、近隣の国々の位置や国旗。	①日本の東西南北の端がどこか、地図資料から調べる。それぞれの端で隣り合っている国の名称や国旗も確認し、ノートやワークシートに整理する。 ②日本の国土の範囲や形について、気づいたことや感じたことを話し合う。 ③「どこまでが日本か」を考えて話し合う。	【知技】日本の国土の東西南北の端や、国土のおおまかな構成について理解している。(ノ)(テ)(発)
日本の国土はどこまで？ P16～18 【配時1】	日本の領土や領海、排他的経済水域の広がりに着目して、日本の国土のおおまかな範囲を捉える。また、領土をめぐる課題についておおまかに把握する。	○日本の領土や領海、排他的経済水域の広がり、領土をめぐる諸課題について、地図資料や写真を読み取って調べる。 ◆日本の排他的経済水域は領土に比べて広いこと、北方領土・竹島・尖閣諸島などの島々をめぐる課題が、近隣の国々との間にあること。	①領土、領海、排他的経済水域の広がりについて、資料を読み取って調べ、わかったことを話し合う。 ②領土をめぐる問題について、資料を読み取っておおまかに把握し、感想を話し合う。 ③これまでの学習を踏まえ、日本の国土の範囲についてわかったことをノートなどに整理する。	【知技】日本の領土や領海、排他的経済水域の範囲をおおまかに理解し、それらをめぐる課題があることを把握している。(発)(ノ)
＜まとめる＞ P19 【配時1】	これまでの学習をもとに、日本の国土の位置や構成、広がりについて考え、多様な方法で表現する。	○日本の国土の位置や構成、広がりについて、様々な表現を考えて短文で書き表し、発表し合う。 ◆世界の国々や大陸、海洋との位置関係、緯度・経度、国土を構成する島々などを使って、国土の位置や広がりを多様に表せること。	①日本の国土の位置や広がりについて、様々な言い表し方をグループ内で考え、短文でカードに書く。 ②カードを持って並び、地球儀や地図を指し示しながら、順番に発表する。発表が終わったカードは、似た内容のものを分類しながら、黒板に貼っていく。 ③発表や黒板のカードをふまえ、改めて日本の国土の特色について考え、ノートなどにまとめる。	【思判表】世界の国々・大陸・海洋との位置関係、緯度・経度、国土を構成する島々などをもとに、日本の国土の特色についてさまざまな言い表し方を考え、適切に伝え合っている。(発)(ノ) 【態】これまで学習したことを生かして、日本の国土の広がりについて、自分の考えをまとめようとしている。(発)(ノ)

小単元 2	国土の気候と地形	配当時間 4 時間	教科書 5 P20～27
-------	----------	-----------	-----------------

目 標

- 我が国の国土の地形や気候の概要について理解するとともに、地図帳や統計などの各種の基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- 我が国の国土の地形や気候の特色を多角的に考える力、考えたことを説明する力を養う。
- 我が国の国土の地形や気候の特色について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・地形や気候などについて、地図帳や統計などで調べて、必要な情報を集め、読み取り、国土の自然の様子を理解している。 ・調べたことを白地図や文などにまとめ、我が国の国土の地形や気候の概要を理解している。	・地形や気候などに着目して、問いを見だし、国土の自然の様子について考え表現している。 ・各地の地形や気候の違いを比較したり、地形と気候を関連づけたりして、国土の自然環境の特色を考え、適切に表現している。	・我が国の国土の地形や気候の特色について、予想や学習計画を立て、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。 ・学習したことをもとに、日本各地の気候の違いと自然条件との関連について考えようとしている。

小単元名：2 国土の気候と地形 【配当 4 時間】

【態】＝主体的に学習に取り組む態度、【知技】＝知識・技能、【思判表】＝思考・判断・表現
(発)＝発言・発表、(行)＝行動観察、(ノ)＝ノート・作品、(テ)＝テスト

ページ	本時のねらい	○主な学習活動／◆学習内容	本時の学習活動	評価規準/評価方法		
変化の大きい 日本の自然 P20～21 【配時1】	日本各地の気候の違いに着目して、国土の自然条件について疑問を見だし、学習問題をつくる。予想を話し合い、追究の見通しをもつ。	○3地点の気候の様子の違いを複数の資料の比較から読み取り、気づいたことや疑問を整理し、学習問題をつくる。 ◆日本の国土では、地域によって気候の違いが見られること、北に位置する方が気温は低くなること。	①小笠原と知床の3月の写真、気温のグラフを比べて、気づいたことや感想を発表する。 ②知床と奥日光の3月の写真、気温のグラフを比べて、新たに気づいたことや疑問を発表する。 ③これまでの気づきや疑問を振り返って整理し、学習問題をつくる。	【思判表】日本各地の気候の違いから見いだした疑問をもとに、学習問題をつくり、表現している。(発)(ノ) 【態】日本各地の気候の違いの原因について予想を話し合い、それをもとに主体的に追究しようとしている。(発)(ノ)		
			学習問題 日本の各地の気候には、どうしてちがいが生まれるのだろう。			
					④各地の気候の違いの原因について予想し、発表する。	
気温と地形との関係 P22～23 【配時1】	日本の主な山地や山脈、平野、河川などに着目し、国土の地形の特色を捉え、地形と気温との関係を捉える。	○国土の地形の様子について地図資料を活用して調べ、気づいたことやわかったことを話し合う。 ◆日本の国土は山地・山脈が多く、海沿いには、平野や入り組んだ海岸線も見られること。標高の高い地域では、気温が下がること。	①知床と奥日光の標高を地図資料で確かめ、標高差による気温の違いをつかむ。 ②日本の主な山地や山脈、平野、河川などを調べ、ワークシートや白地図などに記入する。 ③日本の地形の特色を話し合い、その特色と気温との関係について考えたことをノートに整理する。	【知技】地図資料から、日本の主な山地や山脈、平野、河川などを的確に読み取り、国土の地形の特色や気温との関係をおおまかに捉えている。(行)(ノ)		
日本のさまざまな気候 P24～25 【配時1】	地域や時期による気温や降水量の違いに着目し、国土の気候の特色を捉える。	○日本の気候の特色について、雨温図や気候区分図、イラストなどを関連づけて読み取り、気づいたことやわかったことを話し合う。 ◆日本の気候は、国土の地形や季節風などの影響によって、北と南、太平洋側と日本海側とで大きな違いがあること。また、梅雨や台風の影響も大きいこと。	①東京と白川郷の2月の写真、雨温図を比べて、気づいたことを発表する。 ②日本各地の雨温図、同じ地域の四季の写真から、地域や季節による気候の違いを読み取る。 ③関連資料から、梅雨や台風、季節風が気候に与える影響について読み取る。 ④前時で学習した地形の特色と、季節風との関係について考え、話し合う。	【知技】各地の気候の違いを複数の資料からの的確に読み取り、国土の気候の特色や季節風と地形との関係をおおまかに捉えている。(発)(ノ)		
<まとめる> P26～27 【配時1】	各地の気候の違いと様々な自然条件との関連を整理して考え、国土の地形や気候の特色を理解する。	○日本の国土の地形や気候の特色について、白地図や表に整理し、気候の違いについて考えたことを発表し合う。 ◆日本の気候や地形の特色について、白地図や表を使って整理する方法。	①これまでの学習をもとに、日本各地の気候や地形の様子について、白地図におおまかに記入してまとめる。 ②白地図に整理したことをもとに、各地の気候と様々な自然条件との関係について、まとめる。 ③日本各地で気候が異なる理由について、短い言葉で書き表し、発表し合う。	【思判表】学習したことを関連づけながら、各地の気候が国土の中の位置や地形、台風や季節風などの影響を受けていることを考え、適切に説明している。(発)(ノ) 【態】これまで学習したことを生かして、日本各地の気候の違いと自然条件との関連について、自分の考えをまとめようとしている。(発)(ノ)		

小単元 3	自然条件と人々の暮らし	配当時間 10 時間	教科書 5 P28～45／46～57
-------	-------------	------------	-----------------------

目 標

- 自然条件から見て特色ある地域の人々が、自然環境に適応して生活していることを理解するとともに、地図帳や統計などの各種の基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- 我が国の国土の自然環境の特色と国民生活との関連を多角的に考える力、考えたことを説明する力を養う。
- 我が国の国土の自然環境の特色と国民生活との関連について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、我が国の国土に対する愛情を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・地形や気候などについて、地図帳や統計などで調べて、必要な情報を集め、読み取り、自然条件から見て特色ある地域の人々の生活の様子を理解している。 ・調べたことをまとめ、人々は自然環境に適応して生活していることを理解している。	・地形や気候などに着目して、問いを見だし、自然条件から見て特色ある地域の人々の生活について考え表現している。 ・地形や気候の条件と人々の生活や産業の工夫などを関連づけて、国土の自然環境の特色と国民生活との関連を考え、適切に表現している。	・我が国の国土の自然環境の特色と国民生活との関連について、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。 ・学習したことをもとに、地域の自然条件と暮らしや産業の関係について考えようとしている。

小単元名：3 自然条件と人々の暮らし 【配当 10 時間】

※「暖かい地域」と「寒い地域」のどちらか、「高地」と「低地」のどちらかをそれぞれ選択して学習

【態】＝主体的に学習に取り組む態度、【知技】＝知識・技能、【思判表】＝思考・判断・表現

(発)＝発言・発表、(行)＝行動観察、(ノ)＝ノート・作品、(テ)＝テスト

ページ	本時のねらい	○主な学習活動／◆学習内容	本時の学習活動	評価規準/評価方法
あたたかい地域と寒い地域、高地と低地 P28～29 【配時1】	暖かい地域と寒い地域、高地と低地それぞれの様子に着目して、各地の自然条件と人々の暮らしや産業との関係について、学習問題をつくる。	○暖かい地域と寒い地域、高地と低地の様子を、写真を読み取って比較し、気づいたことや疑問を整理し、学習問題をつくる。 ◆日本には、気候や地形などの自然条件に特色のある地域があり、さまざまな違いが見られること。	①沖縄県と北海道の写真を比べて、気づいたことや感想を発表する。 ②沖縄県と北海道のみやげ物や食材の写真を比べて、気づいたことや疑問などを発表する。 ③野辺山原と佐原北部についても写真を比べて、気づいたことや疑問などを発表する。 ④これまでの気づきや疑問を振り返って整理し、学習問題をつくる。	【思判表】暖かい地域と寒い地域、高地と低地との比較をもとに、自然条件の特色と暮らしや産業との関係を問う学習問題をつくり、表現している。(発)(ノ)
学習問題 気候や地形の特色と、人々の暮らしや産業にはどのような関係があるのだろう。				
学習問題について予想して、学習計画を立てよう P30～31 【配時1】	気候や地形に特色のある地域の暮らしや産業について、これまでの学習を根拠に予想や学習計画を立て、追究の見通しをもつ。	○前時につくった学習問題について、各種資料を根拠にして予想したり、調べる計画を話し合っ て決めたりする。 ◆(温暖な地域と高地を選択した場合) 沖縄県は年間を通じて温暖で、降水量も多い。野辺山原は標高が高いので、夏でも涼しい。	①自分たちが住んでいる地域の様子とも比較し、学習地域を選択する。 ②雨温図や写真資料、これまでの学習をもとに、学習問題に対する予想を立てる。 ③予想を発表し、人々の「暮らし」と「産業」などに分類する。 ④分類した予想をもとに、調べる内容と調べ方を話し合い、学習計画をノートに整理する。	【態】自然条件に特色のある地域の暮らしや産業についての予想を話し合い、それをもとに学習計画を立て、主体的に学習問題を解決しようとしている。(発)(ノ)
あたたかい気候と沖縄県の観光 P32～33 【配時1】	沖縄県の気候に着目して、暖かい気候を生かした沖縄県の観光の工夫を捉える。	○沖縄県の気候と観光との関係について、資料を見つけて調べ、わかったことを話し合う。 ◆沖縄県では、冬でも暖かい気候や美しい海を生かした観光が盛んであること。また、琉球王国の独自の文化が今も受け継がれていること。	①沖縄県の観光について、その特色や暖かい気候との関係がわかる資料を教科書や資料集から見つける。 ②暖かい気候を生かした沖縄県の観光の工夫について、見つけた資料から読み取る。 ③わかったことを発表し、ノートなどに整理する。	【知技】沖縄県で暮らす人々が冬でも暖かい気候を観光に生かしている様子を、複数の資料を関連づけて読み取っている。(発)(ノ)
あたたかい気候と沖縄県の農業・漁業 P34～35 【配時1】	沖縄県の気候に着目して、暖かく台風の多い気候に合った農業・水産業が沖縄県で営まれていることを捉える。	○沖縄県の気候と農業や水産業との関係について、資料を見つけて調べ、わかったことを話し合う。 ◆沖縄県では温暖な気候を生かし、さとうきび、果物、きくなどの農産物や、もずくなどの水産物の生産が盛んであること。	①沖縄県の農業・水産業について、暖かい気候との関係がわかる資料を教科書や資料集から見つける。 ②暖かい気候を生かした沖縄県の農業・水産業の工夫について、見つけた資料から読み取る。 ③わかったことを発表し、ノートなどに整理する。	【知技】沖縄県で暮らす人々が冬でも暖かい気候を農業や水産業に生かしている様子を、複数の資料を関連づけて読み取っている。(発)(ノ)

暑さや台風と、 沖縄県の人々の暮らし P36～37 【配時1】	沖縄県の気候に着目して、夏の蒸し暑さや台風に備えた暮らしの工夫を沖縄県の人々が取り入れていることを捉える。また、沖縄県の歴史に触れる。	○沖縄県の気候と、家のつくりなど暮らしの様子との関係について、資料を見つけて調べ、わかったことを話し合う。 ◆沖縄県では夏の蒸し暑さや台風に合わせて、家のつくりや服装などに様々な工夫をしていること。また、土地利用や歴史の面から、沖縄県が抱えている課題があること。	①沖縄県の人々の暮らしについて、気候との関係がわかる資料を教科書や資料集から見つける。 ②夏の蒸し暑さや台風に備えた、沖縄県の人々の暮らしの工夫について、見つけた資料から読み取る。 ③沖縄県の土地利用や歴史に関する資料を読み取り、水不足や軍用地などの課題に対する人々の思いや願いについて考え、話し合う。 ④わかったことを発表し、ノートなどに整理する。	【知技】沖縄県で暮らす人々が夏の蒸し暑さや台風、水不足に備えた工夫をしている様子を、複数の資料を関連づけて読み取っている。(発)(ノ)
＜自分で調べて考える＞ 高地の自然条件と、野辺山原の農業 P38～40 【配時1】	野辺山原の地形に着目し、夏でも涼しい高地の自然条件を生かして、どのような農業が営まれているか考える。	○野辺山原の自然条件と農業との関係について資料を調べ、わかったことを話し合う。 ◆野辺山原は標高 1200m以上に位置する高地で、夏でも涼しい気候を生かした高原野菜の生産が盛んであること。	①野辺山原で多く生産されている農産物を、資料から読み取る。〈協働〉 ②野辺山原の夏でも涼しい高地の自然条件と農業との関係について、資料から読み取り、考える。〈個別〉 ③野辺山原の自然条件と農業との関係について、わかったこと・考えたことをノートに整理し、意見を交換する。〈協働〉	【知技】野辺山原で暮らす人々が、夏でも涼しい高地の自然条件を農業に生かしている様子を、複数の資料を関連づけて読み取っている。(発)(ノ)
＜自分で調べて考える＞ 高地の自然条件と、野辺山原の産業 P41～42 【配時1】	野辺山原の地形に着目して、高地の自然条件を生かして、どのような産業が展開されているか考える。	○野辺山原の自然条件と産業との関係について資料を調べ、わかったことを話し合う。 ◆野辺山原では高地の自然条件を生かして、乳牛を育てる酪農を営んだり、様々な体験や行事を楽しめるようにしたりしていること。	①野辺山原の野菜生産以外の産業について、資料から読み取る。〈協働〉 ②野辺山原の高地の自然条件と酪農や観光との関係について、資料から読み取り、考える。〈個別〉 ③野辺山原の自然条件と産業との関係について、わかったこと・考えたことをノートに整理し、意見を交換する。〈協働〉	【知技】野辺山原で暮らす人々が、高地の自然条件を酪農や観光に生かしている様子を、複数の資料を関連づけて読み取っている。(発)(ノ)
＜自分で調べて考える＞ あれ地や寒さと、野辺山原の人々の暮らし P43～44 【配時1】	野辺山原の地形に着目して、野辺山原の人々が高地の自然条件を克服するために、どのような努力をしてきたか考える。	○野辺山原の自然条件と、暮らしの様子や開拓の歴史との関係について資料を調べ、わかったことを話し合う。 ◆野辺山原が現在のような農業生産地になるためには、人々が長い時間をかけ、冷涼な気候や土地の条件を克服する努力を重ねてきたこと。	①野辺山原の土地の様子の変化を、資料から読み取る。〈協働〉 ②荒れた土地や厳しい寒さを克服するために、野辺山原の人々がどのようなことに取り組んできたか資料から読み取り、考える。〈個別〉 ③野辺山原の自然条件と人々の暮らしとの関係について、わかったこと・考えたことをノートに整理し、意見を交換する。〈協働〉	【知技】野辺山原で暮らす人々が、高地の厳しい自然条件を克服する努力を重ねながら暮らしてきた様子を、複数の資料を関連づけて読み取っている。(発)(ノ)

＜まとめる＞ P45 【配時2】	調べた地域の自然条件と人々の暮らしとの関係を整理して、人々が自然条件の特色を生かして産業を営んでいること、自然条件に合わせる工夫や克服する努力をしていることを理解する。	○自然条件に特色のある地域の暮らしや産業について、その条件と関係するものをリーフレットに整理し、紹介し合う。 ◆日本の国土では、自然条件の特色を生かした産業や、その条件の中で暮らす人々の工夫や努力が各地で見られること。	①沖縄県と野辺山原のどちらかを選択し、自然条件を生かしたり克服したりしている様子について調べたことを、リーフレットにまとめる。 ②できたリーフレットを紹介し合い、分類・整理して、沖縄県と野辺山原の人々の暮らしや産業の共通点を考える。 ③明らかにした共通点をもとに、学習問題についての考えをまとめる。	【思判表】調べた地域の様子をもとに、自然条件と暮らしや産業との関係について考え、適切に説明している。(発)(ノ) 【態】これまで学習したことを生かして、調べた地域の自然条件と暮らしや産業の関係について、自分の考えをまとめようとしている。(発)(ノ)
---------------------------------------	---	---	--	--

小単元名：3 自然条件と人々の暮らし ＜せんたく＞

※「暖かい地域」と「寒い地域」のどちらか、「高地」と「低地」のどちらかをそれぞれ選択して学習

【態】＝主体的に学習に取り組む態度、【知技】＝知識・技能、【思判表】＝思考・判断・表現
(発)＝発言・発表、(行)＝行動観察、(ノ)＝ノート・作品、(テ)＝テスト

ページ	本時のねらい	○主な学習活動／◆学習内容	本時の学習活動	評価規準/評価方法
＜せんたく＞ 寒い気候と北海道の観光 P46～47 【配時1】	北海道の気候に着目して、冷涼な気候や自然環境を生かした北海道の観光の工夫を捉える。	○北海道の気候と観光との関係について、資料を見つけて調べ、わかったことを話し合う。 ◆北海道では、冷涼な気候や豊かな自然を生かした観光が盛んであること。また、アイヌの人々の文化が今も受け継がれていること。	①北海道の観光について、その特色や冷涼な気候との関係がわかる資料を教科書や資料集から見つける。 ②冷涼な気候を生かした北海道の観光の工夫について、見つけた資料から読み取る。 ③わかったことを発表し、ノートなどに整理する。	【知技】北海道で暮らす人々が冷涼な気候や自然環境を観光に生かしている様子を、複数の資料を関連づけて読み取っている。(発)(ノ)
＜せんたく＞ 寒い気候と北海道の農業・漁業 P48～49 【配時1】	北海道の気候に着目して、冷涼な気候に合った農業・水産業が北海道で営まれていることを捉える。	○北海道の気候と農業や水産業との関係について、資料を見つけて調べ、わかったことを話し合う。 ◆北海道では冷涼な気候を生かし、酪農や、小麦、てんさいなどの農産物、ほたてなどの水産物の生産が盛んであること。	①北海道の農業・水産業について、冷涼な気候との関係がわかる資料を教科書や資料集から見つける。 ②冷涼な気候を生かした北海道の農業・水産業の工夫について、見つけた資料から読み取る。 ③わかったことを発表し、ノートなどに整理する。	【知技】北海道で暮らす人々が冷涼な気候を農業や水産業に生かしている様子を、複数の資料を関連づけて読み取っている。(発)(ノ)
＜せんたく＞ 寒さや雪と、北海道の人々の暮らし P50～51 【配時1】	北海道の気候に着目して、冬の寒さや雪に備えた暮らしの工夫を北海道の人々が取り入れていることを捉える。また、北海道とロシアとの関係に触れる。	○北海道の気候と、家の作りなど暮らしの様子との関係について、資料を見つけて調べ、わかったことを話し合う。 ◆北海道では冬の寒さや雪をしのぐために、道路や家の作りなどにさまざまな工夫をしていること。また、ロシアとの領土をめぐる課題があること。	①北海道の人々の暮らしについて、気候との関係がわかる資料を教科書や資料集から見つける。 ②冬の寒さや雪に備えた、北海道の人々の暮らしの工夫について、見つけた資料から読み取る。 ③わかったことを発表し、ノートなどに整理する。 ④北海道と隣国ロシアとの関係についての資料を読み取り、領土をめぐる課題に対する人々の思いや願いについて考え、話し合う。	【知技】北海道で暮らす人々が冬の寒さや雪に備えた工夫をしている様子を、複数の資料を関連づけて読み取っている。(発)(ノ)

<せんたく> 低地の自然条件と、佐原北部の農業 P52～53 【配時1】	佐原北部の地形に着目して、低地の自然条件を生かした農業が佐原北部で営まれていることを捉える。	○佐原北部の自然条件と農業との関係について、資料を見つけて調べ、わかったことを話し合う。 ◆佐原北部は標高 0mほどの平らな土地が広がる低地で、その土地や豊富な水を生かした米の生産が盛んであること。	①佐原北部の農業について、低地の自然条件との関係がわかる資料を教科書や資料集から見つける。 ②低地の自然条件を生かした佐原北部の農業の工夫について、見つけた資料から読み取る。 ③わかったことを発表し、ノートなどに整理する。	【知技】佐原北部で暮らす人々が、豊富な水と平たい土地が広がる低地の自然条件を農業に生かしている様子を、複数の資料を関連づけて読み取っている。(発)(ノ)
<せんたく> 水害と、佐原北部の人々の暮らし P54～55 【配時1】	佐原北部の地形に着目して、低地の自然条件を克服する努力を佐原北部の人々が重ねてきたことを捉える。	○佐原北部の自然条件と、暮らしの様子や治水の歴史との関係について、資料を見つけて調べ、わかったことを話し合う。 ◆佐原北部が現在のような米の産地になるためには、人々が長い時間をかけ、低地で頻繁に発生する水害を克服する努力を重ねてきたこと。	①佐原北部の人々の暮らしについて、低地の自然条件との関係がわかる資料を教科書や資料集から見つける。 ②水害を克服するために、佐原北部の人々が取り組んできた暮らしの工夫や治水の努力について、見つけた資料から読み取る。 ③わかったことや考えたことを発表し、ノートなどに整理する。	【知技】佐原北部で暮らす人々が、低地での厳しい水害を克服する努力を重ねながら暮らしてきた様子を、複数の資料を関連づけて読み取っている。(発)(ノ)
<せんたく> 低地の自然条件と、佐原北部の観光 P56～57 【配時1】	佐原北部の地形に着目して、低地の自然条件を生かした佐原北部の観光の工夫を捉える。	○佐原北部の自然条件と観光との関係について、資料を見つけて調べ、わかったことを話し合う。 ◆佐原北部では低地の自然条件を生かして、様々な体験や行事を楽しめるようにしていること。	①佐原北部の観光について、その特色や低地の自然条件との関係がわかる資料を教科書や資料集から見つける。 ②低地の自然条件を生かした佐原北部の観光の工夫について、見つけた資料から読み取る。 ③わかったことを発表し、ノートなどに整理する。	【知技】佐原北部で暮らす人々が、低地の自然条件を観光に生かしている様子を、複数の資料を関連づけて読み取っている。(発)(ノ)

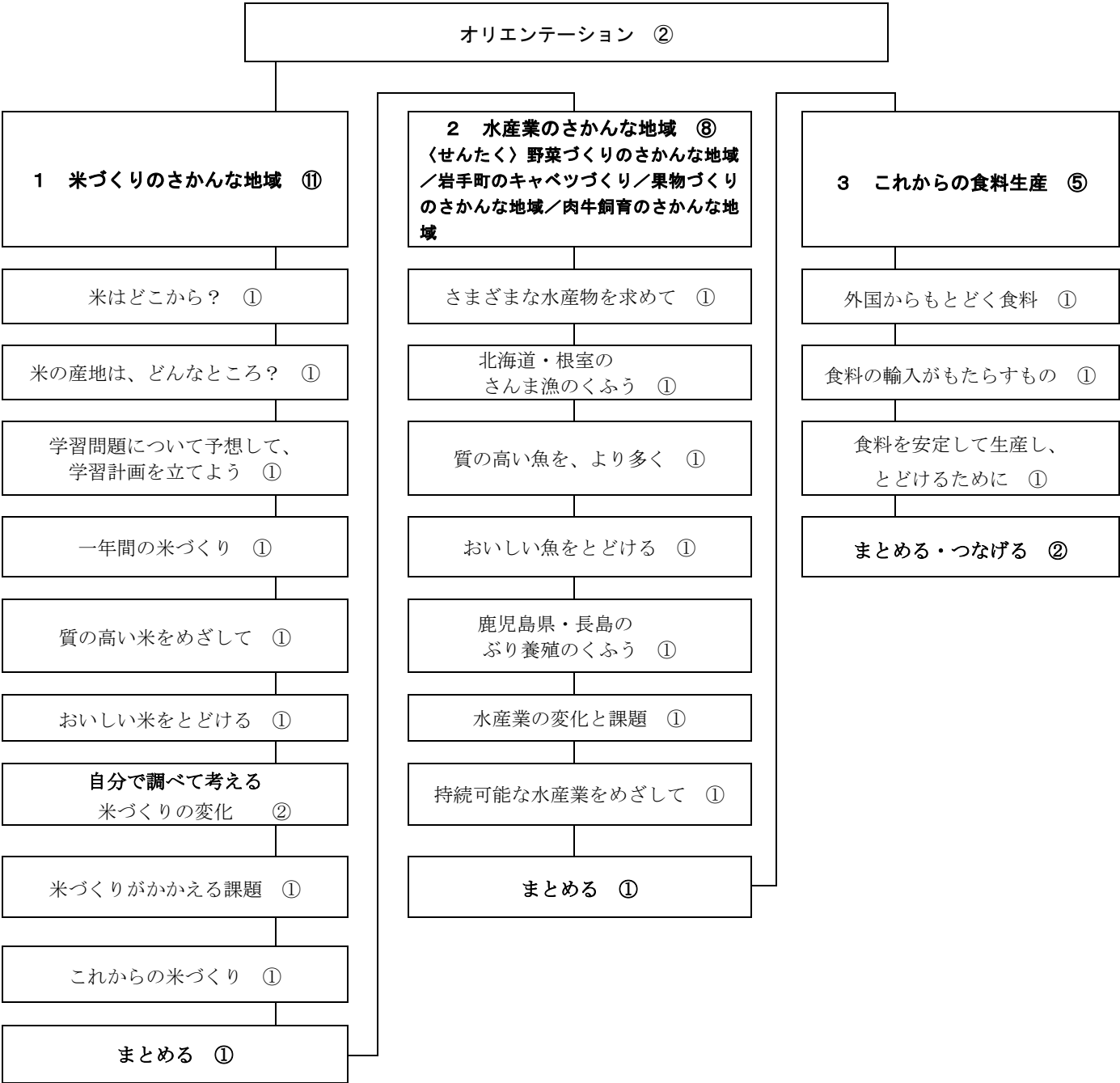
大単元 2	未来を支える食料生産	配当時間 26 時間	教科書 5 P60～121
-------	------------	------------	------------------

目 標

- 我が国の農業や水産業における食料生産の現状について、国民生活との関連を踏まえて理解するとともに、地図帳や地球儀、統計などの各種の基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- 我が国の食料生産が国民生活に果たす役割や食料生産に関わる人々の働きを多角的に考える力、食料生産に見られる課題を把握してその解決に向けて考える力、考えたことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- 我が国の食料生産について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、我が国の産業の発展を願い我が国の将来を担う国民としての自覚を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・我が国の食料生産は、自然条件を生かして営まれていることや、国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることを理解している。 ・食料生産に関わる人々は、生産性や品質を高めるよう努力したり輸送方法や販売方法を工夫したりして、良質な食料を消費地に届けるなど、食料生産を支えていることを理解している。 ・地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめている。	・生産物の種類や分布、生産量の変化、輸入など外国との関わりなどに着目して、食料生産の概要を捉え、食料生産が国民生活に果たす役割を考え、表現している。 ・生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などに着目して、食料生産に関わる人々の工夫や努力を捉え、その働きを考え、表現している。	・我が国の農業や水産業における食料生産について、主体的に問題解決しようとしたり、その発展について多角的に考えようとしたりしている。



○の中の数字は、配当時数。

小单元 1	米づくりのさかんな地域	配当時間 11 時間	教科書 5 P66～87
-------	-------------	------------	-----------------

目 標

- 我が国の稲作が、自然条件を生かして営まれていることや、その生産に関わる人々の工夫や努力によって支えられていることを理解するとともに、地図帳や統計などの各種の基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- 稲作に関わる人々の働きを多角的に考える力、稲作に関わる課題を把握して、これからの稲作の発展について考える力、考えたことを説明する力を養う。
- 我が国の稲作について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、我が国の産業の発展を願い我が国の将来を担う国民としての自覚を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・稲の種類や分布、生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用、生産量の変化などについて、地図帳や統計などで調べて、必要な情報を集め、読み取り、稲作の概要や稲作に関わる人々の工夫や努力を理解している。 ・調べたことをまとめ、稲作は自然条件を生かして営まれていることや、稲作に関わる人々は生産性や品質を高めるよう努力したり輸送方法や販売方法を工夫したりして、良質な食料を消費地に届けるなど、食料生産を支えていることを理解している。	・稲の種類や分布、生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用、生産量の変化などに着目して、問いを見だし、稲作の概要や稲作に関わる人々の工夫や努力について考え表現している。 ・稲作の変化と、稲作に関わる人々の工夫や努力とを関連づけて、それらの人々の働きを考えたり、学習したことをもとにこれからの稲作の発展について考えたりして、適切に表現している。	・我が国の稲作について、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。 ・学習したことをもとにこれからの稲作の発展について考えようとしている。

大単元名：2 未来を支える食料生産 【配当2時間】

【態】＝主体的に学習に取り組む態度、【知技】＝知識・技能、【思判表】＝思考・判断・表現
(発)＝発言・発表、(行)＝行動観察、(ノ)＝ノート・作品、(テ)＝テスト

ページ	本時のねらい	○主な学習活動／◆学習内容	本時の学習活動	評価規準/評価方法
＜オリエンテーション＞ 全国からとどく食料 P60～65 【配時2】	様々な食料の産地や生産量、消費量に着目して、自分たちの食生活と食料生産とのつながりについて関心をもつ。	○主な食料の産地の広がりや生産量、消費量について、地図や写真などの資料を使って調べ、気づいたことや疑問に思ったことを話し合う。 ◆主な食料の産地の分布や生産量、消費量について。	①様々な食料の産地表示を写真から読み取り、その産地を地図資料から見つける。 ②①の作業から、気づいたことや疑問に思ったことを話し合う。 ③日本で多く生産され、食べられている食料について調べる。 ④主食となっている米の生産に着目し、知りたいことや調べたいことを話し合う。	【知技】様々な種類の食料の産地と、主な食料の生産量・消費量を、資料からの確に読み取っている。(発)(ノ)

小単元名：1 米づくりのさかんな地域 【配当11時間】

【態】＝主体的に学習に取り組む態度、【知技】＝知識・技能、【思判表】＝思考・判断・表現
(発)＝発言・発表、(行)＝行動観察、(ノ)＝ノート・作品、(テ)＝テスト

ページ	本時のねらい	○主な学習活動／◆学習内容	本時の学習活動	評価規準/評価方法
米はどこから？ P66～67 【配時1】	自分たちが食べている米はどこで生産されているのかに着目して、米の産地の分布を捉える。	○国内で米の生産が盛んな地域はどこか、集めた米袋などを白地図に貼り付けたり、地図資料を読み取ったりして調べる。 ◆米は日本全国で生産されているが、特に新潟県や北海道、東北地方などで生産量が多いこと。	①地図資料や集めた米袋、店のちらしなどから調べた米の産地と品種を、白地図に書きこむ。 ②地図帳や資料集などを活用し、日本のどこで米が多く生産されているかを各自で調べる。 ③米づくりと自然条件との関係がわかる資料を読み取り、わかったことをノートに整理する。	【知技】国内の米の主な産地の分布について、資料からの確に読み取っている。(発)(ノ)
米の産地は、 どんなところ？ P68～69 【配時1】	新潟県南魚沼市の自然条件が米づくりに適していることに着目して、その中で行われる米づくりについて学習問題をつくる。	○写真や雨温図、土地利用図などをもとに、南魚沼市の自然条件や土地利用の特色について調べ、気づいたことや疑問を整理し、学習問題をつくる。 ◆南魚沼市は冬に雪の多い日本海側に位置し、その水田地帯は盆地にあること。豊かな雪どけ水、夏の昼夜の気温差が大きい気候などが、米づくりに適していること。	①新潟県南魚沼市の自然条件や土地利用の特色について、写真や雨温図、土地利用図などを読み取って調べ、米づくりと自然条件との関係について前時の学習も振り返って考える。 ②南魚沼市で働く農家の人の話を読み取り、米づくりと自然条件との関係についてわかったことを話し合う。 ③これまでの気づきや疑問を振り返って整理し、学習問題をつくる。	【知技】南魚沼市の自然条件の特色と米づくりとの関係について、複数の資料を関連づけて読み取っている。(発)(ノ) 【思判表】これまでの学習をもとに、南魚沼市の米づくりについて調べたいことを整理して学習問題をつくり、表現している。(発)(ノ)
学習問題 米づくりのさかんな地域では、 人々がどのようにふうや努力をして米を生産しているのだろう。				

学習問題について予想して、学習計画を立てよう P70～71 【配時1】	米づくりに携わる人々がどのような工夫や努力をして米を生産しているか予想し、その予想をもとに学習計画を立て、追究の見通しをもつ。	○前時につくった学習問題について、既習内容や生活経験、各種資料を根拠にして予想したり、調べる計画を話し合って決めたりする。 ◆様々な予想や意見を整理するための方法。	①前時につくった学習問題を確認したあと、作業風景の写真なども参考にしながら、学習問題について各自で予想をする。 ②予想を全体で出し合い、似たものを整理・分類する。 ③何について調べれば、予想したことを確かめられるかを話し合い、これから調べることを決める。 ④どうやって調べればよいかを話し合って決め、「調べること」と「調べ方」を整理した学習計画をノートに書く。	【態】これまでの学習や生活経験などを根拠にして、南魚沼市の米づくりについて予想を話し合い、それをもとに学習計画を立て、主体的に追究しようとしている。(発)(ノ)
一年間の米づくり P72～73 【配時1】	1年間の米づくりの作業の流れに着目して、種もみの準備から収穫まで、様々な作業を行う必要があることを捉える。	○南魚沼市の農家を例にした資料をもとに、1年間の米づくりの作業の流れについて、順を追って調べる。 ◆春から秋の長い期間にかけて、さまざまな作業を通して稲が育てられていること。	①南魚沼市の農家の三輪さんが所有する田の規模や収穫量などを本文から読み取る。 ②一年間の米づくりカレンダーや話をもとに、米づくりの1年間の作業の流れを調べ、ノートなどに整理する。 ③米づくりをするうえで大切な条件について考えて、話し合う。	【知技】米が収穫されるまでには、春から秋にかけて様々な作業があること、天候や土の状態が影響することを理解している。(発)(ノ)
質の高い米をめざして P74～75 【配時1】	南魚沼市の米づくりの中で取り組まれている工夫に着目して、農家の人たちが安全や環境に配慮して米をつくっていることを捉える。	○米づくりの作業の工夫について、南魚沼市の農家を例にした資料をもとに調べ、農家の人たちが気をつけていることについて話し合う。 ◆安全で良質な米をつくるために、水の管理や黒酢散布など、化学肥料や農薬の使用を減らす工夫をしていること。	①三輪さんの水田管理の作業について、写真や話から読み取る。 ②肥料・農薬の扱いに関する様々な工夫を写真やイラストなどから読み取り、わかったことをノートなどに整理する。 ③農家の人たちが仕事をするうえで気をつけていることや、その理由について考えて話し合い、ノートなどに整理する。	【知技】農家の人たちが、様々な工夫や技術を取り入れて、安全や環境に配慮した米づくりを進めていることを捉えている。(発)(ノ)
おいしい米をとどける P76～77 【配時1】	米が生産者から消費者のもとに届けられる様子に着目して、米の出荷や輸送、販売に携わる人々の働きや、米の値段に含まれる費用について捉える。	○複数の資料をもとに、米の流通の流れについて順を追って調べ、わかったことを整理する。 ◆米の流通経路には、農協を経由するもの、しないものなど、様々なものがあること。農協や輸送・販売に関わる人たちがいることで、米は各地に届けられていること。米の値段には、生産や輸送、販売などにかかる費用が反映されていること。	①「米がとどくまで」の資料をたどり、収穫から消費者のもとに届くまでの流れを整理する。 ②米の出荷・輸送にはどのような人たちが関わっているか、資料をもとに考え、話し合う。 ③米の値段に含まれる費用を資料から調べ、米の流通と値段との関係をノートに整理する。	【知技】米の流通の流れや、そこに携わる人々の働き、米の値段に含まれる費用について、資料から的確に読み取っている。(発)(ノ)

＜自分で調べて考える＞ 米づくりの変化 P78～81 【配時2】	米づくりが改善されてきた様子に着目して、短い労働時間で多くの米を生産できるようになった理由を考える。	○昔と比べて米づくりが改善されてきたことを複数の資料から読み取り、作業時間が減った理由を考える。 ◆味のよい米、病気に強い米などを求めて品種改良が進められてきたこと。機械化や耕地整理などの工夫や努力によって、昔に比べて短い労働時間で多くの米を生産できるようになったこと。	①米の生産量の変化と米づくりの作業時間の変化を、資料から読み取る。〈協働〉 ②米が多くとれるようになった理由と、米づくりの作業時間が短くなった理由を資料から読み取り、考える。〈個別〉 ③短い労働時間で多くの米を生産できるようになった理由について、わかったこと・考えたことをノートに整理し、意見を交換する。〈協働〉	【知技】昔と比べて、生産量が増え、作業時間が短縮された理由を、複数の資料を関連づけて読み取っている。資料の表題、目盛り、最大最小の値、変化の傾向などを、正しく読み取っている。(発)(ノ)
米づくりがかかえる課題 P82～83 【配時1】	米づくりを取り巻く変化に着目して、米の生産量・消費量の減少、農業従事者の減少、競争の激化といった日本の米づくりの課題を捉える。	○米の生産量と消費量の変化や、それに伴う動きについて複数の資料から調べ、日本の米づくりが抱える課題について考える。 ◆日本の米づくりが抱える課題として、米の生産量と消費量の減少、農業従事者（特に若い層）の減少、競争の激化などがあること。消費量の減少に伴い、国の生産調整が進められてきたこと。	①米の生産量と消費量の変化をグラフから読み取り、それぞれの変化を関連づけてわかることを発表し合う。 ②農家の人の話やグラフなどの資料から、農家の人たちが心配していることを読み取り、ノートなどに整理する。 ③日本の米づくりが抱えている課題について、これまで調べたことを根拠にして考え、話し合う。	【知技】複数の資料を関連づけて読み取り、日本の米の生産量が消費量とともに減少してきたことや、米づくりの現状にはいくつかの課題があることを捉えている。(発)(ノ)
これからの米づくり P84～85 【配時1】	米づくりの課題を解決するための取り組みや人々の協力関係に着目して、これからも生産を続けていこうとする農家の人たちの思いについて捉える。	○米づくりが抱える課題ごとに、解決のための取り組みの例を各種資料から見つけ、米づくりに関わる人たちの思いについて話し合う。 ◆米づくりに関わる人たちは、良質な米づくりを多くの消費者に伝える努力や、費用を下げる生産方法の工夫などに取り組む、地域での生産を続けようとしていること。	①前時に考えた米づくりの課題を振り返り、各課題の解決につながりそうな取り組みを三輪さんの話や写真などの中から見つける。 ②見つけた取り組みを発表し合い、米づくりに関わる人々が課題に対してどのような取り組みを進めているか、わかったことをノートなどに整理する。 ③課題に取り組む農家の人たち、米づくりに関わる人たちの思いについて考え、話し合う。	【知技】米づくりに関わる人たちが課題を乗り越え、地域での生産を続けていけるような様々な工夫や努力をしていることを捉えている。(発)(ノ)
＜まとめる＞ P86～87 【配時1】	これまでの学習を整理して、米づくりを支える様々な条件や人々の働き、変化や課題に対応する人々の工夫や努力について理解し、これからの米づくりについて考える。	○米づくりに関わる人々の工夫や努力について整理して、これからの米づくりに関する各自の考えを発表し合う。 ◆農家の人たちは、より質の高い米を効率よく生産するために、様々な工夫や努力を重ねてきたこと。課題の解決に向けた、様々な取り組みがあること。	①これまで学んできた米づくりの変化、その変化に関係する人々の工夫や努力を振り返り、整理する。 ②これまでの学習をもとに、「米づくりが盛んになるためには、何が大切なのか」、複数の視点から考え、ノートなどに整理する。 ③これから米づくりを進めていくうえで大切だと思うことを考えてノートなどにまとめ、発表し合う。	【思判表】米づくりにおける様々な変化や課題、それに関連する人々の工夫や努力などについて調べたことを総合して、米づくりを進めるうえで大切なことを考え、適切に表現している。(ノ)(テ) 【態】今まで学習したことを生かして、これからの米づくりに対する自分の考えをまとめようとしている。(発)(ノ)

小単元 2	水産業のさかんな地域	配当時間 8 時間	教科書 5 P88～103
-------	------------	-----------	------------------

目 標

- 我が国の水産業が、自然条件を生かして営まれていることや、その生産に関わる人々の工夫や努力によって支えられていることを理解するとともに、地図帳や統計などの各種の基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- 水産業に関わる人々の働きを多角的に考える力、水産業に関わる課題を把握して、これからの水産業の発展について考える力、考えたことを説明する力を養う。
- 我が国の水産業について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、我が国の産業の発展を願い我が国の将来を担う国民としての自覚を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・水産物の種類や分布、生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用、生産量の変化などについて、地図帳や統計などで調べて、必要な情報を集め、読み取り、水産業の概要や水産業に関わる人々の工夫や努力を理解している。 ・調べたことを文や表などにまとめ、水産業は自然条件を生かして営まれていることや、水産業に関わる人々は生産性や品質を高めるよう努力したり輸送方法を工夫したりして、良質な食料を消費地に届けるなど、食料生産を支えていることを理解している。	・水産物の種類や分布、生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用、生産量の変化などに着目して、問いを見だし、水産業の概要や水産業に関わる人々の工夫や努力について考え表現している。 ・水産業に関わる人々の様々な工夫や努力を総合して、それらの人々の働きを考えたり、学習したことをもとにこれからの水産業の発展について考えたりして、適切に表現している。	・我が国の水産業について、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。 ・学習したことをもとにこれからの水産業の発展について考えようとしている。

小単元名：2 水産業のさかんな地域 【配当 8 時間】

※「水産業のさかんな地域」か、P106～111 の各内容のいずれかを選択して学習

【態】＝主体的に学習に取り組む態度、【知技】＝知識・技能、【思判表】＝思考・判断・表現
(発)＝発言・発表、(行)＝行動観察、(ノ)＝ノート・作品、(テ)＝テスト

ページ	本時のねらい	○主な学習活動／◆学習内容	本時の学習活動	評価規準/評価方法
さまざまな水産物を求めて P88～89 【配時1】	自分たちがよく食べている水産物の種類やその産地に着目して、日本の水産業について関心をもち、学習問題をつくる。	○身近な水産物の種類や産地を資料から読み取り、水産業と自然条件との関係について考える。さらに知りたいことを出し合い、学習問題をつくる。 ◆普段食べている水産物は日本や世界の各地から届けられていること。水産物の水あげ量や種類は、海流などの自然条件と関係があり、特に暖流と寒流がぶつかる場所は好漁場になること。	①店のちらしや写真などを見ながら、最近食べた水産物を発表し合う。 ②教科書や地図帳などを活用して、発表で出た主な水産物の産地を調べ、白地図などにまとめる。 ③地図資料から、水あげ量が多い漁港の位置や日本近海でとれる水産物の種類を読み取り、海流など自然条件との関係を考える。 ④水産業について明らかにしたいことを出し合って整理し、学習問題をつくる。	【思判表】主な水産物の種類や産地の分布などを資料から読み取り、それをもとに水産業について調べたいことを整理して学習問題をつくり、表現している。(発)(ノ)
学習問題 水産業がさかんな地域の人々は、 どのようにふうや努力をして魚をとり、消費者にとどけているのだろう。				
北海道・根室のさんま漁のくふう P90～91 【配時1】	これまでの学習を生かして、学習問題についての予想や学習計画を立て、追究の見通しをもつ。北海道・根室のさんま漁の様子に着目して、漁師さんたちの漁の工夫を捉える。	○前時につくった学習問題について予想したり、調べる計画を立てたりする。計画に基づき、北海道・根室のさんま漁について、様々な資料を読み取って調べる。 ◆さんま漁の漁師さんたちは、経験を生かしながら、集魚灯、ソーナーなどを活用して魚を効率的に獲るとともに、鮮度を保つ工夫をしていること。	①前時の学習を振り返り、海からとってくる漁業と養殖業のそれぞれについて調べることを確かめる。 ②米づくりの学習なども振り返りながら、学習問題について予想し、予想を確かめるために何を調べればよいか考え、意見を分類・整理する。 ③どのように調べればよいか話し合い、「調べること」と「調べ方」をノートなどに書き出し、学習計画を立てる。 ④北海道・根室のさんま漁の様子がわかる資料を教科書や資料集から見つけて調べ、わかったことをノートなどに整理する。	【態】予想や学習計画を立てて、主体的に学習問題を解決しようとしている。(発)(ノ) 【知技】漁師さんたちは様々な漁船の設備を使い、長年の経験を生かしながら魚群を見つけ、魚の習性を利用してさんまを獲っていることを資料からの確に読み取っている。(発)(ノ)
質の高い魚を、より多く P92～93 【配時1】	さんまの水あげから箱詰めまでの様子に着目して、漁港でさんまの出荷に関わる人たちの品質を高める工夫や、値段と費用との関係を捉える。	○複数の資料をもとに、水あげ後のさんまのゆくえについて順を追って調べ、漁港で働く人たちの工夫や努力、魚の値段と費用などについてわかったことを整理する。 ◆水産物が水あげされてから出荷されるまでには様々な仕事があり、鮮度や安全性を保とうとしていること。また、せりでは水産物の質や水あげ量によって値段が決まり、その売り上げの中から仕事にかかる費用にあてていること。	①写真やグラフなどの資料を読み取り、根室港でどのような人たちが働いているか調べる。 ②さんまを漁港で水あげした後のことがわかる資料を教科書や資料集から見つけ、漁港の人たちの仕事の様子や工夫についてわかったことをノートなどに整理する。 ③資料をもとに、さんまの値段の決め方、漁や出荷作業の中でかかる費用と値段との関係について考え、ノートなどに整理する。	【知技】新鮮なさんまを衛生的に出荷するための工夫や努力、さんまの値段の決め方、漁や出荷にかかる費用について理解している。(発)(ノ)

おいしい魚をとどける P94～95 【配時1】	さんまが漁港から消費者のもとに届くまでの様子に着目して、産地と消費地を結ぶ流通や輸送のはたらきと、それに関わる人たちの工夫や努力を捉える。	○複数の資料をもとに、さんまの流通の流れについて調べ、運送会社の人たちの工夫や努力、輸送手段の違いについて整理する。 ◆さんまが産地から消費地に届くまでには、様々な人々や交通機関のはたらきがあり、生産・流通・販売まで一貫して、鮮度を保つ工夫をしていること。	①加工工場で箱詰めされた後のさんまのゆくえを予想する。 ②「さんまがとどくまで」の資料をたどり、漁港から消費者のもとに届くまでの流れをノートなどに整理する。 ③運送会社の人々の話や交通機関に関する資料を読み取り、さんまを運ぶうえで気をつけていることを考えて話し合う。 ④さんまを消費地に届けるうえでの工夫について、漁や水あげ、箱詰めなどの作業も含めて調べてわかったことをノートなどに整理する。	【知技】さんまが産地から消費地へ届くまでには、様々な輸送の方法やそれに関わる人たちの工夫や努力があることを資料からの的確に読み取っている。(発)(ノ)
鹿児島県・長島のぶり養殖のくふう P96～97 【配時1】	鹿児島県長島町の、自然条件を生かしたぶり養殖の様子に着目して、品質や安全性の高い魚を安定して出荷するための工夫や努力を捉える。	○鹿児島県長島町のぶり養殖について複数の資料から調べ、養殖業の特色や働く人たちの工夫・努力について考える。 ◆長島町では、温暖な海、いけすの設置に適した入り江などの自然条件を生かしてぶり養殖を行い、計画的に魚を育てて出荷していること。	①地図や写真などから、鹿児島県長島町の位置や漁港の様子、ぶりの養殖と自然条件との関係を読み取り、ノートなどに整理する。 ②ぶりの養殖の作業の流れや、作業の中で気をつけていることについて資料から読み取り、それぞれの作業や工夫の意味について考え、ノートなどに整理する。 ③調べたことをもとに、ぶりの養殖とさんま漁とで似ている点、違う点を考え、話し合う。	【知技】ぶりを育てるうえで必要な環境や設備、作業について資料からの的確に読み取り、養殖業の特色や仕事上の工夫や努力について捉えている。(発)(ノ)
水産業の変化と課題 P98～99 【配時1】	水産業を取り巻く変化に着目して、安定した漁をすることの難しさ、水産物生産量の減少や外国との関係による漁の制限といった日本の水産業の課題について捉える。	○漁業生産量の変化、北方領土と根室の水産業の関係など、水産業の現状について複数の資料から調べ、日本の水産業が抱える課題について考える。 ◆漁獲量の変動や全体の生産量の減少、外国との関係による漁の制限などの課題があること。	①養殖ぶりや天然さんまの生産量の変化を比べて、気づいたことを発表し合う。 ②さんまの漁獲に関する資料や新聞記事を読み取り、さんまの漁獲量が不安定な理由について考える。 ③日本の漁業生産量と水産物輸入量の変化のグラフを読み取り、変化の理由を予想する。 ④日本の水産業が抱えている課題について、これまで調べたことや、北方領土と根室の水産業に関する資料を根拠にして考え、話し合う。	【知技】複数の資料を比べたり関連づけたりして読み取り、日本の水産業の現状をおおまかに把握し、安定的に水産業を営むうえでいくつかの課題があることを捉えている。(発)(ノ)

持続可能な水産業をめざして P100～101 【配時1】	持続可能な水産業を目指す取り組みに着目して、安定した水産業を続けるために、世界の国々が水産資源の管理に取り組んでいること、国内でも様々な取り組みが行われていることを捉える。	○持続可能な水産業を目指すために行われている取り組みを複数の資料から調べ、安定した水産業を続けるために大切なことを考える。 ◆安定した水産業を続けるために、日本を含む世界の国々が水産資源の管理に取り組んでいること、国内の水産業に関わる人たちが、様々な取り組みを行っていること。	①前時に考えた水産業の課題を振り返り、日本と世界の国々が安定した水産業を続けるために取り組んでいることを資料から読み取り、ノートなどに整理する。 ②世界の水産物消費量の増加に伴って、水産業に関わる人たちが取り組んでいること、気をつけるべきことを資料から読み取り、ノートなどに整理する。 ③整理したことをもとに、安定した水産業を続けるために大切なことを考えて話し合う。	【知技】水産業に関わる人たちは、安定した生産を続けていけるよう、水産資源の管理や海の環境保全において、様々な取り組みを進めていることを捉えている。(発)(ノ)
<まとめる> P102～103 【配時1】	これまでの学習を整理して、水産業に関わる人々の働き、変化や課題に対応する人々の工夫や努力について理解し、これからの水産業について考える。	○水産業に関わる人々の工夫や努力についてカードに整理・分類して、これからの水産業に関する各自の考えを発表し合う。 ◆水産業に関わる人たちは、安全で質の高い水産物をより多くの消費者に届けるために、様々な工夫や努力を重ねてきたこと。水産資源の管理にも配慮して、安定した生産を続けたいと願っていること。	①水産業に関わる人々が進める工夫や努力について、各自で印象に残ったことをカードに書く。 ②カードを整理・分類し、共通点を探しながら、そこに込められた人々の思い(大切にしていること)を考えて話し合う。 ③安全で質の高い水産物をこれからも生産し続けるために、大切だと思うことを話し合い、自分の考えをノートに整理する。	【思判表】水産業に関わる人々の工夫や努力について整理したことを総合して、品質や安全性に配慮していること、様々な変化や課題に対応しようとしていることなどを考え、適切に表現している。(ノ)(テ) 【態】今まで学習したことを生かし、安全で質の高い水産物をこれからも生産し続けるために大切なことについて、自分の考えをまとめようとしている。(発)(ノ)

小单元 3	これからの食料生産	配当時間 5 時間	教科書 5 P112～119
-------	-----------	-----------	-------------------

目 標

- 我が国の食料生産の概要や、食料生産が国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることを理解するとともに、地図帳や地球儀、統計などの各種の基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- 食料の生産や輸入に見られる課題を把握して、その解決に向けて多角的に考える力、考えたことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- 我が国の食料の生産や輸入について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、我が国の産業の発展を願い我が国の将来を担う国民としての自覚を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・輸入など外国との関わり、生産量の変化、生産に関わる新しい取り組みなどについて、地図帳や地球儀、統計などで調べて、必要な情報を集め、読み取り、食料生産の概要を理解している。 ・調べたことを文や表などにまとめ、我が国の食料生産は、国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることを理解している。	・輸入など外国との関わり、生産量の変化、生産に関わる新しい取り組みなどに着目して、問いを見いだし、食料生産の概要や食料生産が国民生活に果たす役割について考え、表現している。 ・学習したことをもとに、これからの農業などの発展に向けてできることを消費者や生産者の立場から多角的に考え、適切に表現している。	・我が国の食料の生産や輸入について、予想や学習計画を立て、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。 ・学習したことをもとに、これからの農業などの発展について消費者や生産者の立場から多角的に考えようとしている。

小単元名：3 これからの食料生産 【配当5時間】

【態】＝主体的に学習に取り組む態度、【知技】＝知識・技能、【思判表】＝思考・判断・表現
(発)＝発言・発表、(行)＝行動観察、(ノ)＝ノート・作品、(テ)＝テスト

ページ	本時のねらい	○主な学習活動／◆学習内容	本時の学習活動	評価規準/評価方法
外国からもとどく食料 P112～113 【配時1】	食料輸入の現状に着目して、これからの食料生産や輸入の進め方についての学習問題をつくり、追究の見通しをもつ。	○身近な料理の例を出しながら、食料の輸入の現状について複数の資料から調べ、気になったことやさらに知りたいことを出し合い、学習問題をつくる。 ◆身近な食料の中には、世界各地からの輸入に頼っているものも多く、自分たちの現在の食生活は国内産だけでなく外国産の食料によっても支えられていること。	①これまでの学習を振り返り、輸入している食料があったことを確認する。 ②どれぐらい食料を輸入しているのか、天ぷらそばの食材を例にして調べる。どこから食料を輸入しているのか、地図などの資料から調べる。 ③主な食料の生産量と自給率の変化のグラフを関連づけて読み取り、気づいたことや感想を話し合う。 ④知りたいことや気になることを出し合って整理し、学習問題をつくる。予想や学習計画を話し合う。	【思判表】資料から読み取ったことをもとに、これからの食料の生産や輸入に関する学習問題をつくり、表現している。(発)(ノ) 【態】これからの食料の生産や輸入に関して予想を話し合い、それをもとに学習計画を立て、主体的に追究しようとしている。(発)(ノ)
学習問題 国内の食料生産を発展させていくためには、どうしていけばよいのだろう。				
食料の輸入がもたらすもの P114～115 【配時1】	食料の輸入について、長所と短所、消費者と生産者の立場など多角的な視点で捉え、国内の食料生産が向き合う課題やその解決策について考える。	○食料の輸入がもたらす影響について複数の資料から調べ、課題を整理し、これからの食料生産にはどのような取り組みが必要か話し合う。 ◆食料の輸入の増加には、豊富な食材や安価な食材が入手できるメリットがある一方で、環境に与える影響や、安全性、輸入が止まったときのリスクなどの課題もあること。	①食料の輸入に関する資料を教科書や資料集、新聞記事などから見つける。 ②食料の輸入に伴うメリット・長所と、課題・短所について、それぞれ見つけた資料から調べ、ノートなどに整理する。 ③整理したことをもとに、これからの輸入の進め方について意見を出し合う。 ④生産者の立場で課題を見つめ直し、国内の食料生産を続けていくために何に取り組むとよいか考える。	【知技】食料を輸入することの長所と短所について、資料を的確に読み取って整理し、安定的な食料の確保のためには国内生産の果たす役割も大きいことを捉えている。(発)(ノ)
食料を安定して生産し、とどけるために P116～117 【配時1】	国内の食料生産の課題を解決するための取り組みに着目して、国内で食料を生産し、安定して確保するには様々な立場からの協力が大切であることを捉える。	○国内の食料生産を発展させていくための取り組みの例を各種資料から見つけ、安定的な食料の生産や確保のために大切なことを整理して考える。 ◆国内の食料生産を発展させていくためには、生産者の工夫や努力に加え、販売方法の工夫や、地産地消の取り組みを通じた食生活の見直しなども大切であること。	①国内の食料生産を発展させていくための取り組みの例を、教科書や資料集、新聞記事などから見つける。 ②国内の食料生産を発展させていくために、誰がどのようなことに取り組んでいるか、調べたことをノートなどに整理する。 ③調べてわかったこと、国内の食料生産を続けていくうえで大切だと思うことを話し合う。	【知技】国内の食料生産を発展させていくための取り組みについて、生産や販売、消費などの面から多角的に捉えている。(発)(ノ)

＜まとめる＞ ＜つなげる＞ P118～119 【配時2】	これまでの学習を整理して、国内の食料生産の発展に向けてできることを、生産者の立場と消費者の立場を関連づけながら考え、これからの生産や食生活についての意見をもつ。	○二つの立場に分けて学習を整理し、意見を交流しながら、これからの食料生産や食生活について、最終的な自分の考えをまとめる。 ◆食料生産に関わる様々な立場の人たちが、国内の生産の発展を願い、様々な工夫や努力を重ねてきたこと。消費者である自分たちも、国内の食料生産の発展に関わりがあること。	①生産者と消費者それぞれの立場で、国内の食料生産の発展に向けてできることを考え、付箋やカードに書く。 ②書いた付箋を、表のどの位置に置くか考えて整理する。 ③できた表を見ながら、出された考えを関連づけて、新たに気づいたことや考えたことを話し合う。 ④意見を交流したあと、最後に自分の考えをノートに書く。 ⑤p. 6～7 を参考に、これまでの学習の進め方を振り返り、改善点などを話し合う。	【思判表】食料生産に関わる人々の働きや、消費と生産の関わりなど、調べてわかったことをもとに、これからの食料生産の発展について考え、適切に表現している。(発)(ノ) 【態】調べたことを生かして、これからの食料生産の発展や食生活のあり方について自分の考えをまとめようとしている。(発)(ノ)
---	---	---	--	--

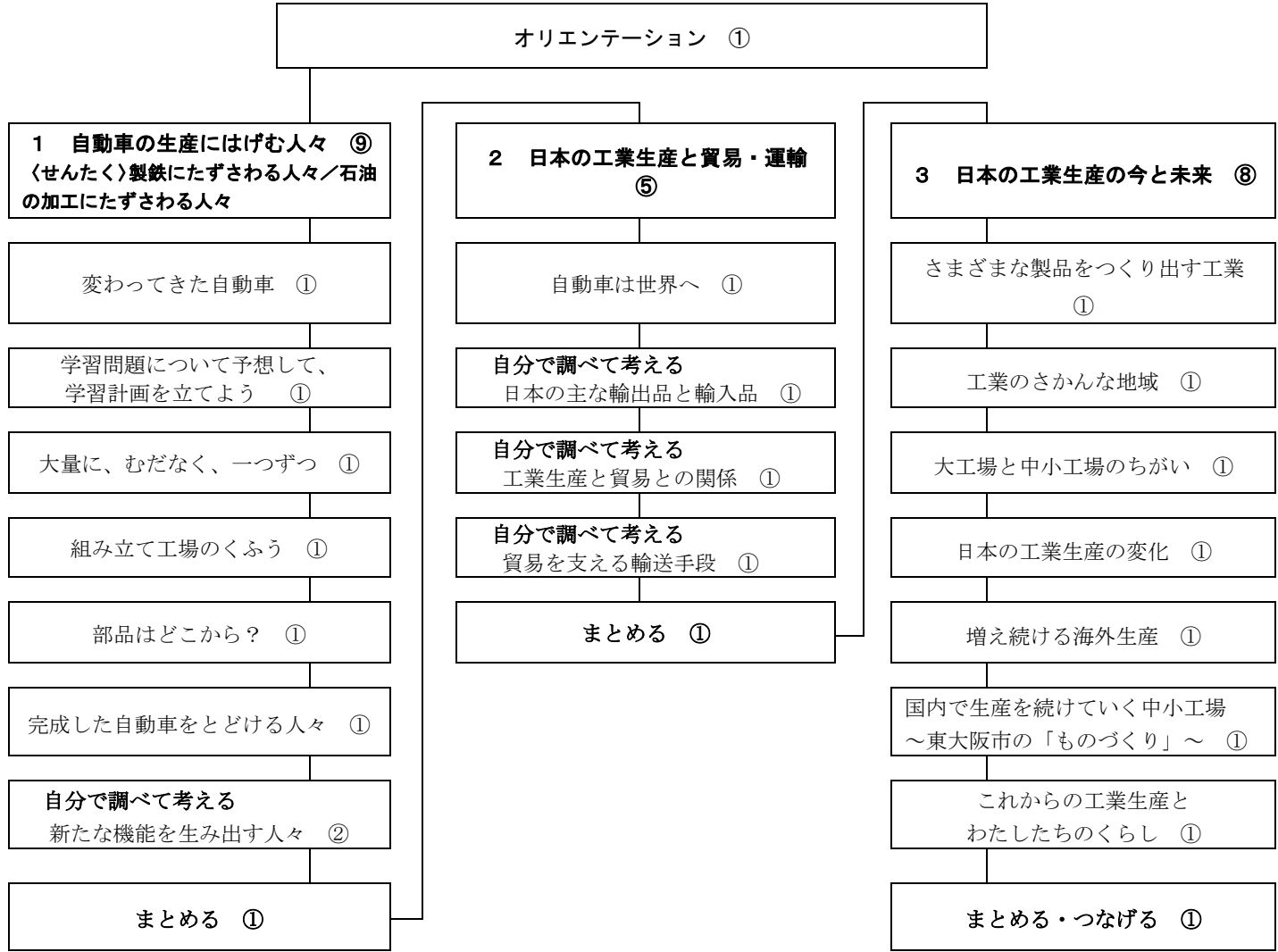
大単元3	未来をつくり出す工業生産	配当時間 23 時間	教科書 5 P122～173
------	--------------	------------	-------------------

目 標

- 我が国の工業生産の現状について、国民生活との関連を踏まえて理解するとともに、地図帳や地球儀、統計などの各種の基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- 我が国の工業生産が国民生活に果たす役割や工業生産に関わる人々の働き、貿易や運輸の役割を多角的に考える力、工業生産に見られる課題を把握してその解決に向けて考える力、考えたことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- 我が国の工業生産について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、我が国の産業の発展を願い我が国の将来を担う国民としての自覚を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・我が国では様々な工業生産が行われていることや、国土には工業の盛んな地域が広がっていること及び工業製品は国民生活の向上に重要な役割を果たしていることを理解している。 ・工業生産に関わる人々は、消費者の需要や社会の変化に対応し、優れた製品を生産するよう様々な工夫や努力をして、工業生産を支えていることを理解している。 ・貿易や運輸は、原材料の確保や製品の販売などにおいて、工業生産を支える重要な役割を果たしていることを理解している。 ・地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめている。	・工業の種類、工業の盛んな地域の分布、工業製品の改良などに着目して、工業生産の概要を捉え、工業生産が国民生活に果たす役割を考え、表現している。 ・製造の工程、工場相互の協力関係、優れた技術などに着目して、工業生産に関わる人々の工夫や努力を捉え、その働きを考え、表現している。 ・交通網の広がり、外国との関わりなどに着目して、貿易や運輸の様子を捉え、それらの役割を考え、表現している。	・我が国の工業生産について、主体的に問題解決しようとしたり、その発展について多角的に考えようとしたりしている。



○の中の数字は、配當時数。

小单元 1	自動車の生産にはげむ人々	配当時間 9 時間	教科書 5 P124～141
-------	--------------	-----------	-------------------

目 標

- 我が国の自動車生産が、その生産に関わる人々の工夫や努力によって支えられていることを理解するとともに、地図帳や統計などの各種の基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- 自動車生産に関わる人々の働きを多角的に考える力、我が国の自動車生産の特色について考える力、考えたことを説明する力を養う。
- 我が国の自動車生産について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、我が国の産業の発展を願い我が国の将来を担う国民としての自覚を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・製造の工程、工場相互の協力関係、優れた技術などについて、写真や統計などで調べて、必要な情報を集め、読み取り、自動車生産に関わる人々の工夫や努力を理解している。 ・調べたことを文や表などにまとめ、自動車生産に関わる人々は、消費者の需要や社会の変化に対応し、優れた製品を生産するよう様々な工夫や努力をして、工業生産を支えていることを理解している。	・製造の工程、工場相互の協力関係、優れた技術などに着目して、問いを見いだし、自動車生産に関わる人々の工夫や努力について考え表現している。 ・自動車生産に関わる人々の様々な工夫や努力を総合して、それらの人々の働きを考えたり、学習したことをもとに日本の自動車生産の特色について考えたりして、適切に表現している。	・我が国の自動車生産について、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。 ・学習したことをもとに、日本の自動車生産の特色について考えようとしている。

大単元名：3 未来をつくり出す工業生産 【配当1時間】

【態】＝主体的に学習に取り組む態度、【知技】＝知識・技能、【思判表】＝思考・判断・表現
(発)＝発言・発表、(行)＝行動観察、(ノ)＝ノート・作品、(テ)＝テスト

ページ	本時のねらい	○主な学習活動／◆学習内容	本時の学習活動	評価規準/評価方法
＜オリエンテーション＞ 工業製品とわたしたちの暮らし P122～123 【配時1】	身近にある様々な工業製品や、昔と今の工業製品の変化に着目して、現在の工業製品は人の手が増えられ改良されてきたものであり、その生産が国民生活を支えてきたことを捉える。	○身近にある様々な工業製品について、イラストや写真などの資料を使って調べ、自分たちの暮らしと工業製品との関わりについて、気づいたことや調べたいことを話し合う。 ◆様々な種類の工業製品に囲まれて暮らしていること。工業製品が改良されたり、新たに開発されたりすることで暮らしが便利になってきたこと。	①台所のイラストを読み取り、身近にどのような工業製品があるか発表し合う。 ②昔と今の工業製品を写真で比べ、その変化について、暮らしの変化と関連づけながら考える。 ③日本で多く生産されている工業製品についてグラフから読み取り、これから調べたいことを話し合う。	【知技】生活の中で様々な工業製品が使われていることや、人の手が増えられ改良されてきた工業製品によって生活が向上してきたことを捉えている。(発)(ノ)

小単元名：1 自動車の生産にはげむ人々 【配当9時間】

※「自動車の生産にはげむ人々」か、P142～145の各内容のいずれかを選択して学習

【態】＝主体的に学習に取り組む態度、【知技】＝知識・技能、【思判表】＝思考・判断・表現
(発)＝発言・発表、(行)＝行動観察、(ノ)＝ノート・作品、(テ)＝テスト

ページ	本時のねらい	○主な学習活動／◆学習内容	本時の学習活動	評価規準/評価方法
変わってきた自動車 P124～125 【配時1】	昔と今の自動車の生産方法や生産台数、車体のデザインや性能などの変化に着目して、今の自動車生産の様子についての学習問題をつくる。	○昔と今の自動車、自動車生産の様子を複数の写真やグラフなどから読み取り、わかったことや調べたいことを整理して、学習問題をつくる。 ◆自動車の性能は向上してきている。また、昔よりも大量に生産できるようになっている。	①昔と今の自動車の違いを写真から読み取り、発表し合う。 ②昔と今の自動車工場の様子の違いを写真から読み取り、生産台数の変化とも関連づけてわかったことを発表し合う。 ③これまでの学習をもとに、自動車の生産について調べたいことを出し合って整理し、学習問題をつくる。	【思判表】自動車の車体や性能、生産の様子の変化について資料から読み取ったことをもとに、現在の自動車生産について予想し、学習問題をつくるために考え、表現している。(発)(ノ)
学習問題 自動車を生産する人々は、どのようにして自動車の性能を上げ、大量に生産しているのだろう。				
学習問題について予想して、学習計画を立てよう P126～127 【配時1】	自動車工場での生産の様子に着目して、学習問題についての予想や学習計画を立て、追究の見通しをもつ。	○前時につくった学習問題について、資料などをもとに予想する。さらに詳しく調べたいことを話し合い、学習計画を立てる。 ◆自動車工場では、広い土地に様々な施設が建てられ、多くの人が働いていること。	①前時につくった学習問題を確認したあと、工場の配置図なども参考にしながら、学習問題について各自で予想する。 ②何を調べれば、予想したことを確かめられるかを話し合い、これから調べることを決める。 ③どうやって調べればよいかを話し合って決め、「調べること」と「調べ方」を整理した学習計画をノートに書く。	【態】学習問題についての予想や学習計画を立て、主体的に追究しようとしている。(発)(ノ) 【知技】工場全体の様子について、写真や地図などを互いに照らし合わせるなどして、具体的に読み取っている。(発)(ノ)

大量に、むだなく、一つずつ P128～129 【配時1】	人とロボットの分業のもとで行われる自動車の生産工程に着目して、生産に込められた様々な工夫や努力、思いを捉える。	○工場見学やそれに代わる資料の読み取りから、自動車の生産工程を調べ、そこに見られる工夫や努力について話し合う。 ◆工場では様々な種類の自動車を同じラインで大量に生産していること。多くの人たちとロボットとの分業によって、効率的に進められていること。	①工程の写真の読み取り、実際の工場見学などを通して、自動車生産の各工程で人やロボットがどのような作業をしているか調べ、わかったことをノートなどに整理する。 ②ロボットの行う作業について調べたことをもとに、ロボットを導入している理由を考え、話し合う。 ③人が行う作業について調べたことをもとに、その作業を人が担う理由を考え、そこから働く人たちの工夫や努力、思い、人が働く価値について話し合う。	【知技】自動車生産はラインに沿って人とロボットが作業を分担したり、こまめに検査したりすることによって、品質を大事にしつつ効率的に進められていることを理解している。(発)(ノ)
組み立て工場のくふう P130～131 【配時1】	自動車組み立てラインの具体的な作業に着目して、大量生産を支えている、効率のよい生産の工夫や努力を捉える。調べてわかったことをもとに、次に調べる問いを明確にする。	○工場見学やそれに代わる資料の読み取りから、組み立てラインで働く人たちの様子を調べ、自動車生産の様々な工夫や努力を整理したうえで、さらに調べたいことを話し合う。 ◆自動車工場では、ミスを防ぎ、効率よい生産を保つために、様々な工夫や努力をしていること。	①組み立てラインで大量に部品を取り付けていく作業について、詳しくわかる資料を教科書や資料集から見つける。 ②大量の部品を扱う作業の工夫や努力について、見つけた資料を読み取って調べる。 ③工場の生産工程についてわかったことをノートなどに整理し、生産の中で全体的に取り組んでいる工夫、気をつけていることなどを話し合う。 ④これまでの学習をもとに、さらに調べたいことや新たに疑問に思ったことを話し合い、当初の計画に加える。	【知技】大量生産を進めるうえで必要な作業のミスを防ぐ工夫や、働きやすい環境を整える取り組みについて、複数の資料からの確に読み取っている。(発)(ノ) 【態】これまでの学習を踏まえて、まだわかっていないこと(新たな問い)を見いだし学習計画に書き加え、追究しようとしている。(発)(ノ)
部品はどこから？ P132～133 【配時1】	部品調達の流れや部品生産の工夫・努力に着目して、自動車工場を支える関連工場の役割を捉える。	○部品を生産し届ける工場について各種資料で調べ、部品調達における工夫や、関連工場の役割について考え、話し合う。 ◆多くの関連工場から正確に部品が届くジャスト・イン・タイム方式が、自動車工場の効率的な生産を支えていること。	①シート工場から自動車工場へ部品が届けられる様子を写真や地図、工場の人話から読み取り、わかったことをノートなどに整理する。 ②整理したことをもとに、部品の調達における工夫や、関連工場に気をつけていることについて話し合う。 ③工場間の結びつきについてわかる資料を読み取り、自動車工場と関連工場との関係性について考えたことをノートなどに整理する。	【知技】自動車生産を支える関連工場の役割や、関連工場と自動車工場との結びつきについて理解している。(発)(ノ)

完成した自動車をとどける人々 P134～135 【配時1】	自動車工場から販売店に届くまでの流れに着目して、出荷に関わる人たちの工夫や努力、工場の立地と輸送との関係について捉える。	○自動車の輸送の流れを複数の資料から読み取り、新車を運ぶ人たちの工夫や努力、輸送手段の違いや工場立地との関連についてわかったことを整理する。 ◆きずをつけず正確に運ぶ工夫や努力、様々な輸送手段のはたらきに支えられ、新車が各地に届けられていること。工場は、資材や製品を船やキャリアカーで運びやすい立地にあること。	①「自動車がとどくまで」の資料をたどり、工場の港から販売店に届くまでの流れをノートなどに整理する。 ②輸送に関わる人の話などを読み取り、新車を運ぶ際の工夫や注意している点をノートなどに整理する。 ③地図資料などを読み取り、輸送手段の使い分け方や、工場立地と輸送との関係について考えたことを話し合う。	【知技】自動車が工場から消費地へ届くまでには、様々な輸送手段やそれに携わる人たちの工夫や努力があること、輸送しやすい場所に工場が立地していることを資料から的確に読み取っている。(発)(ノ)
＜自分で調べて考える＞ 新たな機能を生み出す人々 P136～140 【配時2】	新しい自動車や機能の開発の様子に着目して、自動車を生産する会社では、どのようにして消費者のニーズを反映した製品を開発しているのか考える。	○自動車の新しい機能やその開発について資料から調べ、消費者のニーズとそれに応えようとする人々の仕事内容や思いについて考え、話し合う。 ◆工場での生産とは違う部門で、長い期間の研究開発、試作などを経て、新しい自動車や機能が導入されること。消費者や社会のニーズを的確に捉え、応えようとする人たちがいること。環境に配慮した自動車、誰でも使いやすい自動車、未来に向けた自動運転車の生産などが進められていること。	①新しい自動車を開発する際の流れについて、資料から読み取る。〈協働〉 ②近年開発されている自動車とその機能について、また、自動車会社が応えようとしているニーズについて、資料から読み取る。〈個別〉 ③調べたことをもとに、自動車会社がどのような自動車づくりを目指しているかを考える。〈個別〉 ④自動車はどのようなことを考えて開発されているのか、わかったことや考えたことをノートに整理し、意見を交換する。〈協働〉	【知技】様々な部門の人たちが協力して、消費者のニーズを踏まえながら安全で便利なくらしを目指して、新しい自動車や機能の開発を進めていることを資料から読み取っている。(発)(ノ)
＜まとめる＞ P141 【配時1】	これまでの学習を整理して、自動車の生産に関わる人々の働き、消費者のニーズや社会の動向に対応する工夫や努力について理解し、日本の自動車生産の特色について考える。	○これまでの学習をもとに、自動車生産に関わる人々の工夫や努力についてキャッチコピーの形式で整理して、発表し合う。 ◆自動車を生産する人や乗る人、工場で働く人にとって、安全な自動車づくりが目指されていること。	①自動車の生産に関わる人々の工夫や努力について調べたことを、付箋やカードに整理して共有する。 ②整理したことをもとに、各自で日本の自動車生産を表すキャッチコピーを考え、その言葉にした理由とともに発表し合う。	【思判表】自動車の生産や輸送、開発に携わる人々の工夫や努力について整理したことを総合して、社会に必要とされる製品や優れた製品を消費者に届けようとしていることなどを考え、適切に表現している。(発)(ノ) 【態】これまでの学習を生かして、日本の自動車生産の特色について、自分の考えをまとめようとしている。(発)(ノ)

小単元 2	日本の工業生産と貿易・運輸	配当時間 5 時間	教科書 5 P146～155
-------	---------------	-----------	-------------------

目 標

●貿易や運輸が工業生産を支える重要な役割を果たしていることを理解するとともに、地球儀や地図帳、統計などの各種の基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

●貿易や運輸の役割を多角的に考える力、考えたことを説明する力を養う。

●貿易や運輸の様子について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 交通網の広がり、外国との関わりなどについて、地図帳や地球儀、統計などで調べて、必要な情報を集め、読み取り、貿易や運輸の様子を理解している。 - 調べたことを文や表などにまとめ、貿易や運輸は、原材料の確保や製品の販売などにおいて、工業生産を支える重要な役割を果たしていることを理解している。	- 交通網の広がり、外国との関わりなどに着目して、問いを見いだし、貿易や運輸の様子について考え表現している。 - 貿易や運輸の様子と、国土や工業生産の様々な条件を関連づけて、貿易や運輸の役割を考え、適切に表現している。	- 貿易や運輸の様子について、予想や学習計画を立て、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。 - 学習したことをもとに、貿易や運輸の役割について考えようとしている。

小単元名：2 日本の工業生産と貿易・運輸 【配当5時間】

【態】＝主体的に学習に取り組む態度、【知技】＝知識・技能、【思判表】＝思考・判断・表現
(発)＝発言・発表、(行)＝行動観察、(ノ)＝ノート・作品、(テ)＝テスト

ページ	本時のねらい	○主な学習活動／◆学習内容	本時の学習活動	評価規準/評価方法
自動車は世界へ P146～147 【配時1】	自動車の輸出や原油の輸入の現状から、工業生産における世界各国との結びつきに着目して学習問題をつくり、追究の見通しをもつ。	○自動車の輸出や原油の輸入の様子について各種資料から読み取り、わかったことや調べたいことを整理して学習問題をつくり、予想や学習計画について話し合う。 ◆日本の自動車は、航路を利用して世界各国に多く輸出されていること。一方で、燃料や原料となる原油のほとんどは、外国から輸入していること。	①前単元の学習を振り返ったあと、日本の自動車の主な輸出先を、地図や地球儀から読み取って調べる。 ②自動車の輸出や原油の輸入に関する資料を読み取ってわかったことを整理し、外国との行き来ができなくなるとどうなるか、話し合う。 ③輸出や輸入について調べたいことを出し合って整理し、学習問題をつくる。	【思判表】自動車の輸出や原油の輸入に関する資料から読み取ったことをもとに、日本と外国との貿易関係についての学習問題をつくり、表現している。(発)(ノ) 【態】日本と外国との貿易関係について予想し、それをもとに学習計画を立て、主体的に追究しようとしている。(発)(ノ)
	学習問題 日本の貿易には、どのような特色や役割があるのだろう。			
				④学習問題についての予想や学習計画を話し合う。
<自分で調べて考える> 日本の主な輸出品と輸入品 P148～150 【配時1】	日本の主な輸出入品の種類とその相手先、輸出入品の変化に着目して、日本の貿易の特色を考える。	○日本の主な輸出入の品目や相手先の国々について複数の資料から読み取り、わかったことを話し合う。 ◆日本は近隣の国々を中心に、多くの工業製品を輸出していること。燃料や原料を遠くの国からも多く輸入していること。近年は、機械類や衣類などの製品の輸入が増えていること。	①日本の主な輸出品と輸出相手先を、資料から読み取る。〈個別〉 ②以前と比べて日本の輸出はどう変わったか、また、日本の輸出にはどのような特徴があるか、資料から読み取り考える。〈個別〉 ③日本の主な輸入品や輸入相手先を、資料から読み取る。〈個別〉 ④以前と比べて日本の輸入はどう変わったか、また、日本の輸入には、どのような特徴があるか、資料から読み取り考える。〈個別〉 ⑤日本の貿易の特徴について、わかったこと・考えたことをノートに整理し、意見を交換する。〈協働〉	【知技】日本の輸出入の現状と変化について資料から読み取り、日本の貿易の特色を捉えている。(発)(ノ)
<自分で調べて考える> 工業生産と貿易との関係 P151～152 【配時1】	輸入に依存している燃料や原料、輸出の割合が多い工業製品などに着目して、日本の工業生産と貿易との関係について考える。	○天然資源の輸入や工業製品の輸出について各種資料から読み取り、日本の工業生産と貿易との関わりについて考える。 ◆日本は天然資源に恵まれないため、工業生産に使う燃料や原料を輸入に頼っていること。一方で、優れた技術を生かした製品を輸出することで、日本の工業生産は成り立っていること。	①主な燃料・原料の輸入の割合と主な工業製品の輸出の割合を、資料から読み取る。〈協働〉 ②調べたことをもとに、日本の工業生産と貿易との関係について考える。〈個別〉 ③日本の工業生産と貿易との関係について、わかったこと・考えたことをノートに整理し、意見を交換する。〈協働〉	【知技】主な燃料や原料の輸入の割合、主な工業製品の輸出の割合を資料から読み取り、日本の工業生産と貿易との関係について主体的に考えている。(発)(ノ)

＜自分で調べて考える＞ 貿易を支える 輸送手段 P153～154 【配時1】	輸出入の際に利用する輸送手段に着目して、日本の貿易ではどのようにして原料や製品を輸送しているか考える。	○各種の輸送手段の特色や使い分けを資料から読み取り、貿易における運輸の役割について考える。 ◆海に囲まれた日本では、輸出入品は船や航空機を利用して、各地の港や空港を通して輸送されていること。それぞれの輸送手段の利点を生かした運輸のはたらきが、工業生産と貿易を支えていること。	①日本の貿易では、どのような輸送手段が使われているか考える。〈協働〉 ②調べたことをもとに、各種の輸送手段がどのように使い分けられているか、また日本の貿易において運輸が果たす役割について考える。〈個別〉 ③日本の貿易ではどのように原料や製品を輸送しているか、わかったことや考えたことをノートに整理し、意見を交換する。〈協働〉	【知技】資料から読み取ったことをもとに、様々な輸送手段の特色について整理して、工業生産や貿易における運輸の役割を捉えている。(発)(ノ)
＜まとめる＞ P155 【配時1】	日本の主な輸入品や輸出品、貿易相手先、輸送手段などを整理して、日本の貿易・運輸の特色や役割について考える。	○日本の主な輸入品や輸出品、貿易相手先などを整理し、日本の貿易やそれに関わる運輸の特色や役割について考え、話し合う。 ◆日本の工業生産は、発達した輸送手段や交通網によって、外国から燃料や部品などを輸入し、製品を輸出することで成り立っていること。	①これまでの学習を振り返り、日本の主な輸入品や輸出品、貿易相手先、輸送手段などを整理する。 ②整理したことをもとに、日本の貿易の特色だといえることを考えて書き表し、それらを生み出す原因を考える。 ③貿易や運輸は、日本の工業生産にどのような役割を果たしているか、最終的な考えをまとめ発表し合う。	【思判表】調べたことをもとに、工業生産と貿易・運輸のはたらきを関連づけながら、貿易や運輸の果たす役割について考え、適切に表現している。(発)(ノ) 【態】これまでの学習を生かして、貿易や運輸の役割について、自分の考えをまとめようとしている。(発)(ノ)

小単元 3	日本の工業生産の今と未来	配当時間 8 時間	教科書 5 P156～171
-------	--------------	-----------	-------------------

目 標

- 我が国の工業生産の概要や、工業生産が国民生活の向上に重要な役割を果たしていることを理解するとともに、地図帳や地球儀、統計などの各種の基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- 我が国の工業生産の概要や特色、工業生産が国民生活に果たす役割を多角的に考える力、工業生産に見られる課題を把握してその解決に向けて多角的に考える力、考えたことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- 我が国の工業生産の概要や特色について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、我が国の産業の発展を願い我が国の将来を担う国民としての自覚を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・工業の種類、工業の盛んな地域の分布、工業製品の改良などについて、地図帳や地球儀、統計などで調べて、必要な情報を集め、読み取り、工業生産の概要を理解している。 ・調べたことを文や白地図などにまとめ、我が国では様々な工業生産が行われていることや、国土には工業の盛んな地域が広がっていること、工業製品は国民生活の向上に重要な役割を果たしていることを理解している。	・工業の種類、工業の盛んな地域の分布、工業製品の改良や開発などに着目して、問いを見いだし、工業生産の概要や特色について考え表現している。 ・身のまわりの工業製品の種類や様々な製品の改良・開発の例を総合して、工業生産が国民生活に果たす役割を考えたり、学習したことをもとに、これからの工業の発展に向けて大切なことを消費者や生産者の立場から多角的に考えたりして、適切に表現している。	・我が国の工業生産の概要や特色について、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。 ・学習したことをもとに、これからの工業の発展について消費者や生産者の立場から多角的に考えようとしている。

小単元名：3 日本の工業生産の今と未来 【配当8時間】

【態】＝主体的に学習に取り組む態度、【知技】＝知識・技能、【思判表】＝思考・判断・表現
(発)＝発言・発表、(行)＝行動観察、(ノ)＝ノート・作品、(テ)＝テスト

ページ	本時のねらい	○主な学習活動／◆学習内容	本時の学習活動	評価規準/評価方法
さまざまな製品をつくり出す工業 P156～157 【配時1】	身近な工業製品の生産の現状から、国内の工業の産地や工業生産額、工業の種類などに着目して学習問題をつくり、追究の見通しをもつ。	○身近な工業製品の産地を調べて白地図に整理したり、日本の工業生産額の変化を資料から読み取ったりして、わかったことやさらに調べたいことを話し合い、学習問題をつくる。 ◆身のまわりには様々な種類の工業製品があり、国内や海外の各地で生産されていること。現在の日本では機械・化学などの重化学工業が中心であること。	①これまでの学習に出てきた工業製品や身近な工業製品がどこで生産されているか、商品の外箱や地図帳などで調べ、白地図に整理する。 ②整理した白地図を見て、産地の分布や製品の種類について気づいたことを話し合う。 ③日本の工業生産額の変化を資料から読み取り、日本ではどのような種類の工業生産が盛んなのかを話し合う。 ④日本の工業生産についてさらに調べたいことを話し合っ て整理し、学習問題をつくる。	【思判表】工業の種類、生産額の変化や割合など資料から読み取ったことをもとに、日本の工業生産に関する学習問題をつくり、表現している。(発)(ノ) 【態】日本の工業生産の現状について予想し、それをもとに学習計画を立て、主体的に追究しようとしている。(発)(ノ)
			学習問題 日本の工業生産には、どのような特色があるのだろう。	
			⑤学習問題についての予想や学習計画を話し合う。	
工業のさかんな地域 P158～159 【配時1】	工業地帯・工業地域の分布や生産額などに着目して、工業の盛んな地域の広がりやそこでの工業が盛んな理由を様々な条件と関連づけて捉える。	○工業の盛んな地域の分布や各地域の特色を地図やグラフなどの資料から読み取り、その分布の様子や理由について考え、話し合う。 ◆工業地帯や工業地域は、太平洋側を中心に、海運を利用しやすい海沿いの地域に多く分布していること。高速道路や空港に近い内陸部にも工業地域は広がり、これらの分布は、土地の条件や交通網の発達などと関係があること。	①工業の盛んな地域はどのあたりに広がっているか、地図資料で調べ、前時の白地図に書き加えるなどして整理する。 ②工業の盛んな各地域で生産が盛んな工業の種類について、グラフや写真を読み取り、わかったことを話し合う。 ③地図帳も活用しながら、これらの地域でなぜ工業が盛んなのか、土地の条件や交通網、貿易の特色などと関連づけながら考え、話し合う。	【知技】工業が盛んな地域の分布や生産の割合が多い工業の種類を資料からの確に読み取り、それらの地域が生産や輸送に適した様々な条件を備えていることを捉えている。(発)(ノ)
大工場と中小工場のちがい P160～161 【配時1】	工場の規模別の割合や、東京都大田区の中 小工場の生産の様子などに着目して、中小工場の生産の特色、国内の工業生産に果たす中小工場の役割を捉える。	○写真やグラフなどの比較を通して、大工場と中小工場の生産の特色について調べ、中小工場の果たす役割について考える。 ◆日本にある工場の多くが中小工場であるように、国内の工業生産に占める中小工場の割合は大きいこと。中小工場の密集する地域では、工場間で協力しながら、高い技術を生かした生産をしていること。	①大工場と中小工場の違いを比べることのできる資料を教科書や資料集から見つけて調べ、それぞれの特色をノートなどに整理する。 ②中小工場が密集する地域の工業生産の様子を教科書や資料集から見つけて調べ、中小工場の生産についてわかったことをノートなどに整理する。 ③中小工場が日本の工業に果たす役割について、これまでの学習をもとに考え、話し合う。	【知技】高い技術を生かした中小工場の生産の工夫や努力、大工場との特色の違いなどを資料からの確に読み取り、中小工場が日本の工業生産に果たす役割について捉えている。(発)(ノ)

日本の工業生産の変化 P162～163 【配時1】	海外への生産の移転など、日本の工業を取り巻く変化に着目して、日本の工業生産の現状や課題を捉える。	○国内の工場数の変化など、日本の工業生産の現状について複数の資料を関連づけて読み取り、これまでに調べた特色を整理したうえで、疑問やさらに調べたいことを考える。 ◆海外への生産の移転が進み、国内の工場数や工場で働く人の数は減っていること。	①主な電化製品の国内生産台数の変化と、国内の工場数や働く人の数の変化をグラフから読み取り、それぞれの変化を関連づけてわかることを発表し合う。 ②国内の工業生産が海外へ移っている現状を資料から読み取り、気になったことを話し合う。 ③これまでの学習を振り返り、今の日本の工業の特色について整理し、発表し合う。 ④整理した特色と関連づけながら、疑問に思ったこと、さらに調べたいことをまとめる。	【思判表】これまでに調べた事実を根拠にして、日本の工業生産の特色を整理し、その現状や課題を的確に表現している。(発)(ノ) 【態】学習問題に即して調べたことを振り返り、さらに調べる必要があることなどを確かめ合い、追究しようとしている。(発)(ノ)
増え続ける海外生産 P164～165 【配時1】	日本の自動車の海外生産の広がりに着目して、海外生産が増えている理由や、その影響について多角的に捉える。	○日本の自動車の海外生産が増えている様子とその理由を資料から読み取り、海外生産が増えることの影響について話し合う。 ◆日本の自動車の海外生産は、外国からの要求をきっかけに増え続けており、世界各地に工場が広がっていること。海外生産の増加には、費用の削減、現地の産業発展などの好影響がある反面、国内生産の縮小、災害や事件への対応といった課題もあること。	①日本の自動車の国内生産台数と海外生産台数の変化をグラフから読み取り、気づいたことを話し合う。 ②どうして海外生産が増えたのか、関連する資料を見つけて読み取り、わかったことを話し合う。 ③世界に広がる日本の自動車工場や海外生産の様子を、地図や海外で働いた人の話などから読み取り、ノートなどに整理する。 ④海外生産が増えることの長所と短所を考え、話し合う。	【知技】海外生産が増加してきた理由やその影響について、複数の資料をもとに日本と外国のそれぞれの立場から多角的に読み取っている。(発)(ノ)
国内で生産を続けていく中小工場～東大阪市の「ものづくり」～ P166～167 【配時1】	国内で生産を続けている大阪府東大阪市の中小工場の優れた技術や発想力に着目して、日本の工業生産の発展につながる人々の工夫や努力を捉える。	○東大阪市の中小工場の製品・生産の様子を複数の資料から読み取り、その特色や強みについて気づいたことを話し合う。 ◆高い技術やアイデアを生かし、世界に通用する高品質の製品や、環境に配慮した製品など、特色ある「ものづくり」を進め、生産を続けていこうとしている中小工場があること。	①国内には中小工場が密集する地域があったことを振り返り、特に工場が多く集まる東大阪市内では、国内生産を続けるために何をしているか予想する。 ②東大阪市内で優れた製品を開発・生産している中小工場の様子がわかる資料を教科書から見つけて調べ、気づいたことをノートなどに整理する。 ③整理したことをもとに、東大阪市の工業の強みについて考え、話し合う。	【知技】中小工場の優れた技術や豊富なアイデアを生かした生産の様子、生産を続けていこうとする人々の思いについて、複数の資料から読み取っている。(発)(ノ)

これからの工業生産とわたしたちの暮らし P168～169 【配時1】	競争力の高い製品や社会のニーズが高まっている製品の開発・生産に着目して、国内の工業生産の発展が人々の生活を支えている様子を捉える。	○近年注目されている具体的な工業製品の例を複数の資料から探し、工業生産が人々の暮らしに果たす役割や、これからの工業生産の発展について話し合う。 ◆自分たちの暮らしを様々な面で支え、豊かにする工業製品の開発・生産が進んでいること。これからの社会のニーズに応える製品の開発、伝統技術などの強みを生かした製品の生産などが、国内の工業生産の発展にもつながっていくこと。	①国内で新たに開発・生産が進められている工業製品、これからますます社会に求められる工業製品の例を、教科書や資料集、新聞記事などから見つける。 ②国内の工業生産に見られる特色や強みについて、見つけた資料から調べ、ノートなどに整理する。 ③整理したことをもとに、工業生産が人々の暮らしにもたらすものや、これから国内で工業生産を続けていくうえで大切だと思うことについて話し合う。	【知技】これからの社会に求められる様々な分野で工業製品の開発が進んでいることを複数の事例から読み取り、工業生産の発展やその役割について、人々の生活と関連づけて捉えている。(発)(ノ)
<まとめる> <つなげる> P170～171 【配時1】	日本の工業生産の特色や強み、課題を捉え直し、課題解決に向けた強みの生かし方を考え、これからの工業生産の発展についての意見をもつ。	○調べてきた日本の工業の特色を付箋に整理・分類・順位づけして、順位づけの理由や意見を交流しながら、これからの工業生産について最終的な自分の意見をまとめる。 ◆日本には、高い技術や豊富なアイデア、新たな分野に取り組む熱意をもった工場が多くあり、多様な製品の開発・生産ができること。これらの強みを生かすことが、国内の工業の発展や国民生活の向上につながる。	①これまで調べたことをもとに、日本の工業生産の特色を各自で付箋に整理する。 ②付箋を集めて分類し、「強み」と「課題」にまとめる。 ③どの「強み」を生かすことが特に大切だと思うか、順位づけをして、理由とともに意見を交流する。 ④交流した意見も踏まえ、日本の工業生産の未来の方向性について、自分の考えをまとめる。 ⑤p.6～7を参考に、これまでの学習の進め方を振り返り、改善点などを話し合う。	【思判表】調べたことを分類・整理して日本の工業生産の強みと課題を理解し、日本の工業が発展するためにどの強みを生かしていけばよいか多角的に考え、適切に表現している。(発)(ノ) 【態】これまで学習したことを生かして、日本の工業生産の発展について自分の考えをまとめようとしている。(発)(ノ)

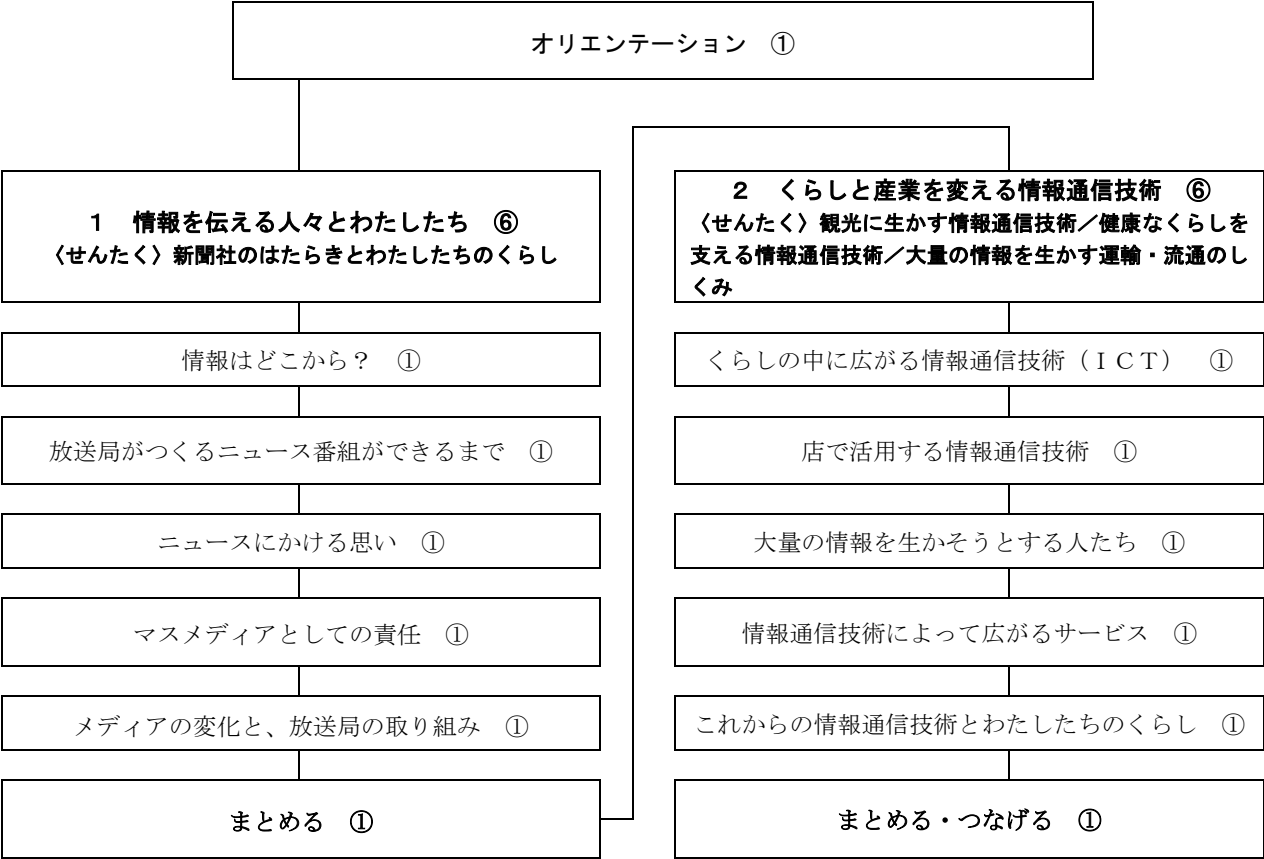
大単元 4	未来とつながる情報	配当時間 13 時間	教科書 5 P174～207
-------	-----------	------------	-------------------

目 標

- 我が国の社会の情報化と産業の関わりについて、国民生活との関連を踏まえて理解するとともに、聞き取り調査や、映像や新聞などの各種の基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- 放送、新聞などの産業が国民生活に果たす役割や、情報を生かして発展する産業が国民生活に果たす役割を多角的に考える力、考えたことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- 我が国の社会の情報化と産業の関わりについて、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、我が国の産業の発展を願う我が国の将来を担う国民としての自覚を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・放送、新聞などの産業は、国民生活に大きな影響を及ぼしていることを理解している。 ・大量の情報や情報通信技術の活用は、様々な産業を発展させ、国民生活を向上させていることを理解している。 ・聞き取り調査をしたり映像や新聞などの各種資料で調べたりして、まとめている。	・情報を集め発信するまでの工夫や努力などに着目して、放送、新聞などの産業の様子を捉え、それらの産業が国民生活に果たす役割を考え、表現している。 ・情報の種類、情報の活用の仕方などに着目して、産業における情報活用の現状を捉え、情報を生かして発展する産業が国民生活に果たす役割を考え、表現している。	・我が国の社会の情報化と産業の関わりについて、主体的に問題解決しようしたり、よりよい社会を考え、学習したことを社会生活に生かそうしたりしている。



○の中の数字は、配当時数。

小单元 1	情報を伝える人々とわたしたち	配当時間 6 時間	教科書 5 P176～187
-------	----------------	-----------	-------------------

目 標

- 放送、新聞などの産業は、国民生活に大きな影響を及ぼしていることを理解するとともに、聞き取り調査や、映像や新聞などの各種の基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- 放送、新聞などの産業が国民生活に果たす役割、情報の有効活用について多角的に考える力、考えたことを説明する力を養う。
- 放送、新聞などの産業と情報の関わりについて、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・情報を集め発信するまでの工夫や努力などについて、聞き取り調査をしたり映像や新聞などで調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、放送、新聞などの産業の様子を理解している。 ・調べたことを文や表などにまとめ、放送、新聞などの産業は、国民生活に大きな影響を及ぼしていることを理解している。	・情報を集め発信するまでの工夫や努力などに着目して、問いを見だし、放送、新聞などの産業の様子について考え表現している。 ・放送局の情報を扱う際の工夫や努力などを総合して、放送、新聞などの産業が国民生活に果たす役割を考えたり、学習したことをもとに、情報を有効に活用するうえで大切なことを情報の送り手と受け手の立場から多角的に考えたりして、適切に表現している。	・放送、新聞などの産業と情報の関わりについて、予想や学習計画を立て、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。 ・学習したことを生かし、自分たちがどのように情報を受け取り、生活に生かしていけばよいか、考えをまとめようとしている。

大単元名：4 未来とつながる情報 【配当1時間】

【態】＝主体的に学習に取り組む態度、【知技】＝知識・技能、【思判表】＝思考・判断・表現
(発)＝発言・発表、(行)＝行動観察、(ノ)＝ノート・作品、(テ)＝テスト

ページ	本時のねらい	○主な学習活動／◆学習内容	本時の学習活動	評価規準/評価方法
＜オリエンテーション＞ 身のまわりの情報 P174～175 【配時1】	日常生活の中で得られる情報の種類やそれらを入手する手段に着目して、情報と生活との関わりについて関心をもつ。	○イラスト資料などを読み取り、身のまわりの情報が、誰に向けて、何のために発信されているか、情報を普段どのように利用しているか、話し合う。 ◆様々な相手や目的を意識した情報が、自分たちの身のまわりにあふれていること。	①自分たちの身のまわりにはどのような情報があり、何を通して伝えられているか、イラストや写真から見つけ出す。 ②見つけた情報が、誰に向けたものか、何のためのものか、話し合いを通して考え、ノートなどに整理する。 ③整理したことをもとに、自分たちが、情報を普段どのように利用しているか、生活経験をもとに話し合う。	【知技】人々が生活の中で様々な情報を入手し、生かしている例を、イラストや写真から数多く読み取っている。 (発)(ノ)

小単元名：1 情報を伝える人々とわたしたち 【配当6時間】

※「情報を伝える人々とわたしたち」か、P188～189の内容のいずれかを選択して学習

【態】＝主体的に学習に取り組む態度、【知技】＝知識・技能、【思判表】＝思考・判断・表現
(発)＝発言・発表、(行)＝行動観察、(ノ)＝ノート・作品、(テ)＝テスト

ページ	本時のねらい	○主な学習活動／◆学習内容	本時の学習活動	評価規準/評価方法
情報はどこから？ P176～177 【配時1】	自分たちが各種メディアを利用して情報を受け取っていることに着目して、それらの情報を発信する産業に関心を持ち、学習問題をつくる。	○情報を入手する手段について、アンケート調査や資料をもとに調べ、多くの人に情報を発信する人たちの仕事について、調べたいことを整理し、学習問題をつくる。 ◆わたしたちは様々なメディアから情報を入手して暮らしていること。多くの人が利用するテレビ放送は、放送局から発信されて届く仕組みが整えられていること。	①クラスのメディア利用の実態を集計して、その結果から、自分たちがどのように情報を入手しているか話し合う。 ②社会全体ではどのメディアを通して情報を入手することが多いか、資料から確かめる。 ③多くの人が利用するテレビ放送の仕組みや放送内容を図やグラフから確かめたあと、実際のニュース映像の一部を視聴して「わかりやすい」と感じる点を話し合う。 ④放送局の仕事について、さらに調べたいことを話し合ってから整理し、学習問題をつくる。	【思判表】調査結果や資料をもとに、多くの人が情報を得ているメディアを捉え、その情報の発信に関わる人々の取り組みについて学習問題をつくり、表現している。 (発)(ノ)
学習問題 放送局の人々は、多くの人に情報を伝えるうえでどのような取り組みをしているのだろう。				
放送局がつくるニュース番組ができるまで P178～179 【配時1】	前時までの学習をもとに、予想と学習計画を立て、追究の見通しをもつ。ニュース番組が放送されるまでの流れに着目して、放送局の人々が情報をどのように伝えているかを捉える。	○予想に基づく学習計画を立てたあと、テレビのニュース番組が放送されるまでの様子を、順を追って写真から読み取り、わかったことを整理する。 ◆放送局では多くの人々が働き、広く集めた情報の中から放送するものを選び、わかりやすく編集して放送していること。	①前時の学習問題について予想し、調べることを確かめ、学習計画を立てる。 ②放送局におけるニュース番組の制作の流れを写真から読み取り、ノートなどに整理する。 ③整理したことをもとに、放送局の人々が情報をどのように扱っているか、わかったことを話し合う。	【態】前時までの学習や資料を根拠にして、放送局の取り組みについて予想し、それをもとに学習計画を立て、主体的に追究しようとしている。 (発)(ノ) 【知技】ニュースが伝えられるまでの流れや、放送局の人々の情報の扱いについて、資料からの確に読み取っている。(発)(ノ)

ニュースにかける思い P180～181 【配時1】	ニュース番組制作の中での工夫や努力に着目して、放送局の様々な人たちが、多くの人々に役立つ情報を正確に伝えようとしていることを捉える。	○ニュース番組制作に関わる人々の仕事について1日のスケジュールを通じて調べ、放送局の人々が気をつけていることを話し合う。 ◆放送局の人々は、次々に届く取材情報の中から、多くの人にとって必要な情報を選んで編集・放送していること。また、制作の各場面で、情報を正確に伝える工夫や努力をしていること。	①「ある日のニュース番組が放送されるまで」の資料から、番組制作のスケジュールや制作に関わる人々の仕事を読み取る。 ②番組制作の各場面でどのようなことに気をつけているか、写真資料や編集責任者の話などをもとに調べ、わかったことをノートなどに整理する。 ③整理したことをもとに、放送局で働く人たちが気をつけていること、大切にしていることについて考えをまとめ、話し合う。	【知技】ニュース番組を制作する放送局の人々が気をつけていること、大切にしていることを、複数の資料を関連づけて読み取っている。(発)(ノ)
マスメディアとしての責任 P182～183 【配時1】	放送局の人々が情報を選ぶときの視点や、情報が人々の行動に与える影響に着目して、マスメディアが発信する情報と自分たちの生活が深く関わっていることを捉える。	○放送局が情報を選ぶ際の考え方、自分たちが情報を受け取る際の影響について各種資料から調べ、マスメディアとしての放送局に求められることについて話し合う。 ◆マスメディアが発信する情報は、社会に広く影響を及ぼすこと。放送局の人々は、社会の出来事や人々の関心に注意を払いながら、責任感をもって情報発信に努めていること。	①放送局ではどのような点に注意して放送するニュースを選んでいるか、編集責任者の話から読み取り、ノートなどに整理する。 ②教科書の資料やテレビ番組表などを参考にして、自分たちがマスメディアの情報をどのように生かし、どのような影響を受けているかについて考え、話し合う。 ③情報を広く発信する放送局に求められることは何か、これまでの学習を関連づけて考え、話し合う。	【知技】マスメディアが発信する情報と自分たちの生活とは深く関わっており、放送局の人々はその影響の大きさや責任を感じながら、伝える情報を選んでいることを捉えている。(発)(ノ)
メディアの変化と、放送局の取り組み P184～185 【配時1】	放送局によるテレビ以外のメディア活用例などを通して、各種メディアの特徴や利用状況の変化についてとらえ、その活用の仕方について多角的に考える。	○メディア利用の変化とそれに関連する取り組みを資料から読み取り、各種メディアの特徴や活用の仕方について話し合う。 ◆様々な情報通信機器やメディアが普及し、情報の受け取り方や発信方法も多様になっていること。人々は、状況に応じて各種メディアを使い分けたり組み合わせたりしながら、必要な情報を受け取り、発信していること。	①情報通信機器の普及と、放送局が取り組んでいるインターネットでの番組配信を関連づけて読み取り、わかることを話し合う。 ②様々なメディアの特徴や活用例がわかる資料を教科書や資料集などから見つけ、それぞれの長所や短所を表に整理する。 ③整理したことをもとに、各種メディアを自分たちがどう活用すればよいか、情報の受信者と発信者の二つの立場から考え、話し合う。	【知技】各種メディアの特徴を比較しながら理解し、状況や入手したい情報に応じてメディアを使い分けることや、情報をより効果的に発信するために複数のメディアを活用することの必要性を捉えている。(発)(ノ)

＜まとめる＞ P186～187 【配時1】	これまでの学習を整理して、マスメディアの発信する情報が社会に与える影響を捉え直し、自分たちは情報をどのように受け取り、生かしていけばよいのかを考える。	○これまでの学習をもとに、マスメディアに関わる人々の工夫や努力についてカードなどに整理して、情報を扱ううえで大切なことを自分たちの生活と関連づけながら話し合う。 ◆多くの人に、重要な情報を正確に伝えるマスメディアの役割と、その影響に伴う責任の大きさ。各種メディアの特徴をふまえ、情報の正確性やかたよりに気をつけながら、情報を受け取り生かしていくことの大切さ。	①情報を広く発信する放送局の人々の工夫や努力について、調べたことをカードなどに整理し、なぜそうしているのかを考え、話し合う。 ②マスメディアが気をつけていること、大切にしていることを参考にして、自分たちはどのようなことに気をつければよいのか考え、ノートなどに整理する。 ③整理したことを踏まえ、自分たちが多様なメディアからどのように情報を受け取り、生活に生かしていけばよいのか話し合い、最終的な自分の考えをまとめる。	【思判表】調べたことを根拠にして、マスメディアの情報発信における影響の大きさや責任と、自分たちの情報の受け取り方や生かし方を関連づけて考え、適切に表現している。(ノ)(テ) 【態】今まで学習したことを生かし、自分たちがどのように情報を受け取り、生活に生かしていけばよいのか、自分の考えをまとめようとしている。(発)(ノ)
--------------------------------------	--	---	---	--

小单元 2	くらしと産業を変える情報通信技術	配当時間 6 時間	教科書 5 P190～201
-------	------------------	-----------	-------------------

目 標

- 大量の情報や情報通信技術の活用は、様々な産業を発展させ、国民生活を向上させていることを理解するとともに、聞き取り調査や、写真や統計などの各種の基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- 情報を生かして発展する産業が国民生活に果たす役割、情報化の進展に伴う産業の発展や国民生活の向上について多角的に考える力、考えたことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- 情報や情報技術の活用による産業と国民生活の変化について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、我が国の産業の発展を願い我が国の将来を担う国民としての自覚を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・情報の種類、情報の活用の仕方などについて、聞き取り調査をしたり写真や統計などで調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、販売などの産業における情報活用の現状を理解している。 ・調べたことを文や表などにまとめ、大量の情報や情報通信技術の活用は、様々な産業を発展させ、国民生活を向上させていることを理解している。	・情報の種類、情報の活用の仕方などに着目して、問いを見だし、販売などの産業における情報活用の現状について考え表現している。 ・販売などの産業における情報活用の様子を総合して、情報を生かして発展する産業が国民生活に果たす役割を考えたり、学習したことをもとに、情報化の進展に伴う産業の発展や国民生活の向上について産業と国民の立場から多角的に考えたりして、適切に表現している。	・情報や情報技術の活用による産業と国民生活の変化について、予想や学習計画を立て、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。 ・学習したことをもとに、情報化の進展に伴う産業の発展や国民生活の向上について産業と国民の立場から多角的に考えようとしている。

小単元名：2 くらしと産業を変える情報通信技術 【配当6時間】

※くらしと産業を変える情報通信技術(P190～201)か、P202～206の各内容のいずれかを選択して学習

【態】＝主体的に学習に取り組む態度、【知技】＝知識・技能、【思判表】＝思考・判断・表現

(発)＝発言・発表、(行)＝行動観察、(ノ)＝ノート・作品、(テ)＝テスト

ページ	本時のねらい	○主な学習活動／◆学習内容	本時の学習活動	評価規準/評価方法
くらしの中に広がる情報通信技術(ICT) P190～191 【配時1】	買い物での情報通信技術(ICT)の普及に着目して、商品販売におけるICT活用についての学習問題をつくり、追究の見通しをもつ。	○自分の体験や資料をもとに、買い物におけるICT活用について調べ、疑問やさらに調べたいことを整理して、学習問題をつくる。 ◆キャッシュレスによって時間や手間が省けるなど、ICTの活用が進み、以前より買い物が便利になっていること。	①様々な情報通信機器が身のまわりにあることを再確認し、キャッシュレス支払いの経験、その場面を見た経験について聞き合う。 ②現金での支払いの写真とキャッシュレスの写真を比較し、違いを話し合う。 ③ICTを活用して買い物はどう変わってきたか、グラフなどの資料から読み取り、なぜICTの利用が増えているのか、考えて話し合う。 ④店などでのICT活用場面を思い出しながら、疑問や調べたいことを話し合って整理し、学習問題をつくる。予想や学習計画を話し合う。	【思判表】身近なICT活用例について捉えたことをもとに、ICTの活用が進む販売業の様子に関する学習問題をつくり、表現している。(発)(ノ) 【態】ICTの活用が進む販売業の様子について予想し、それをもとに学習計画を立て、主体的に追究しようとしている。(発)(ノ)
	学習問題 商品をはん売する人たちは、情報通信技術をどのように活用しているのだろう。			
店で活用する情報通信技術 P192～193 【配時1】	ICTによる情報の収集・活用の仕方に着目して、商店が集める情報の種類や量、情報を集める仕組みやその目的について捉える。	○商店でのICT活用について、販売情報の流れ図を中心に資料を読み取り、その活用によって商店にはどのような利点があるのかを話し合う。 ◆POSシステムを利用することで、販売情報を瞬時に記録し、大量に集めることができること。それらの技術を活用することで、売り上げの管理、商品の適切な仕入れなどを効率よく正確に行っていること。	①商店でのPOSシステムの利用によって、会計のたびにどのような情報が集められているか、その情報を商店では何に使っているか、図を読み取ってノートなどに整理する。 ②商店で集まった情報はさらにどこへ行き、何に生かされているか、図や店長の話などを読み取ってノートなどに整理する。 ③整理したことをもとに、商店がICTを活用して情報を集める目的を考え、話し合う。	【知技】商店で集めている情報の種類や量、情報が集まる仕組みやその流れについて、資料からおおまかに読み取り、この仕組みによって便利になっている点を捉えている。(発)(ノ)

大量の情報を生かそうとする人たち P194～195 【配時1】	商店から大量に集まった情報をさらに分析・活用する取り組みに着目して、商店で働く人々や消費者がどのように便利になっているかを捉える。	○販売に携わる人々が大量の情報を分析して活用する様子について、働く人の話や、活用の前と後を比較する資料などから読み取り、大量の情報を分析・活用する意味について話し合う。 ◆集まった大量の情報を分析することで、別の新たな情報が得られること。本部ではその情報を生かし、各店舗の仕事の質や利益、サービスの向上に努めていること。	①チェーン店では、各地の店舗から集まった大量の情報をどのように生かそうとしているか、本部の人の話などから読み取り、ノートなどに整理する。 ②大量の情報を活用する前と後の違いを比較しながら読み取り、わかったことを話し合う。 ③ポイントカードの利用に関する資料を読み取り、どのような種類の情報が新たに集まるか、店の人や消費者がどのように便利になるかを話し合う。 ④本部の人の話などを読み取り、大量の情報を活用することの意味や、情報活用に伴う思いについて考える。	【知技】大量の情報を分析して活用する前と後の変化について、複数の資料から読み取り、ICTや大量の情報を活用することの利点と配慮すべき点を捉えている。(発)(ノ)
情報通信技術によって広がるサービス P196～197 【配時1】	ICTを活用した商品販売サービスに着目して、ICTの活用が生活の中で果たす役割について考える。	○商品の販売に携わる人々が進めているICTを活用したサービスについて資料から読み取り、生活への影響について話し合う。 ◆インターネットやスマートフォンのアプリを通じた販売サービスが広がっていること。インターネットでの販売で得られた情報やAIをもとに、新たなサービスが提供されていること。	①ICTを活用して商品を販売するサービスについて、資料や生活経験から捉える。 ②販売に携わる人々はICTを活用してどのようなサービスを進めようとしているのか、資料から読み取る。 ③ICTを活用したサービスが生活の中で果たす役割について考える。	【知技】ICTを活用した様々な販売サービスがあることを複数の資料から読み取り、生活の中で欠かせなくなっていることを捉えている。(発)(ノ)
これからの情報通信技術とわたしたちのくらし P198～199 【配時1】	ICT活用が生活や産業にもたらす影響を多角的な視点で捉え、ICT活用の進展に伴う社会の変化や課題について考える。	○ICTの活用が暮らしや産業に与える影響を各種資料から読み取り、関連する社会の変化や課題について話し合う。 ◆ICTの活用が進むことで、人々の働き方や、必要とされる仕事に変化が現れていること。情報の流出や情報格差といった課題にも対応しなければならないこと。	①情報化に伴う仕事や働き方の変化、インターネットの普及に関わる資料を教科書や資料集などから見つけ、社会の変化について気づいたことを話し合う。 ②ICTの活用が進むなかで課題となりそうなことを、個人情報流出の例などから考え、話し合う。 ③自分たちがICTを活用している場面を挙げ、その中で困ったことや、気をつけるべきことを話し合っている。	【知技】ICTの活用が進むに従い、生活や産業の様々な面で変化が生じていること、情報の流出や情報格差などの課題に対応しなければならないことを捉えている。(発)(ノ)

＜まとめる＞ ＜つなげる＞ P200～201 【配時1】	これまでの学習を整理して、ICTや大量の情報の活用による販売業の変化について理解し、今後は自分たちの生活や社会の中でどのように活用していけばよいかを考える。	○これまでの学習をもとに、ICT活用が進む販売業の様子について表などに整理して、これからの社会は情報をどのように活用していくべきか話し合う。 ◆販売の様々な場面で、ICTが活用され便利になってきていること、自分たちの生活にICTの活用が欠かせなくなっていること。ICTの活用はさらに進展すると予想され、今後もその活用の仕方を考え続ける必要があること。	①これまで調べたことをもとに、ICTの活用によって販売業の様子がどのように変化しているか、活用前（以前）と活用後（今）を考えて表や付箋などに整理する。 ②整理したことを発表し合い、ICTの活用が進むことで、今後の社会がどのように変わっていくか、「よくなること」「不安なこと」「気をつけること」に分けて、ノートなどに整理する。 ③これからの社会はICTや大量の情報をどのように生かしていくべきか話し合い、最終的な自分の考えをまとめる。 ④p.6～7を参考に、これまでの学習の進め方を振り返り、改善点などを話し合う。	【思判表】ICTの活用によって、誰が、どのように便利になっているかを整理して、それをもとにICT活用の進展が販売業やこれからの社会に与える影響をメリット・デメリットの両面から考え、適切に表現している。 (発)(ノ) 【態】調べたことを生かして、ICT活用の進展が販売業やこれからの社会に与える影響や、今後の情報活用のあり方について自分の考えをまとめようとしている。 (発)(ノ)
---	---	--	---	---

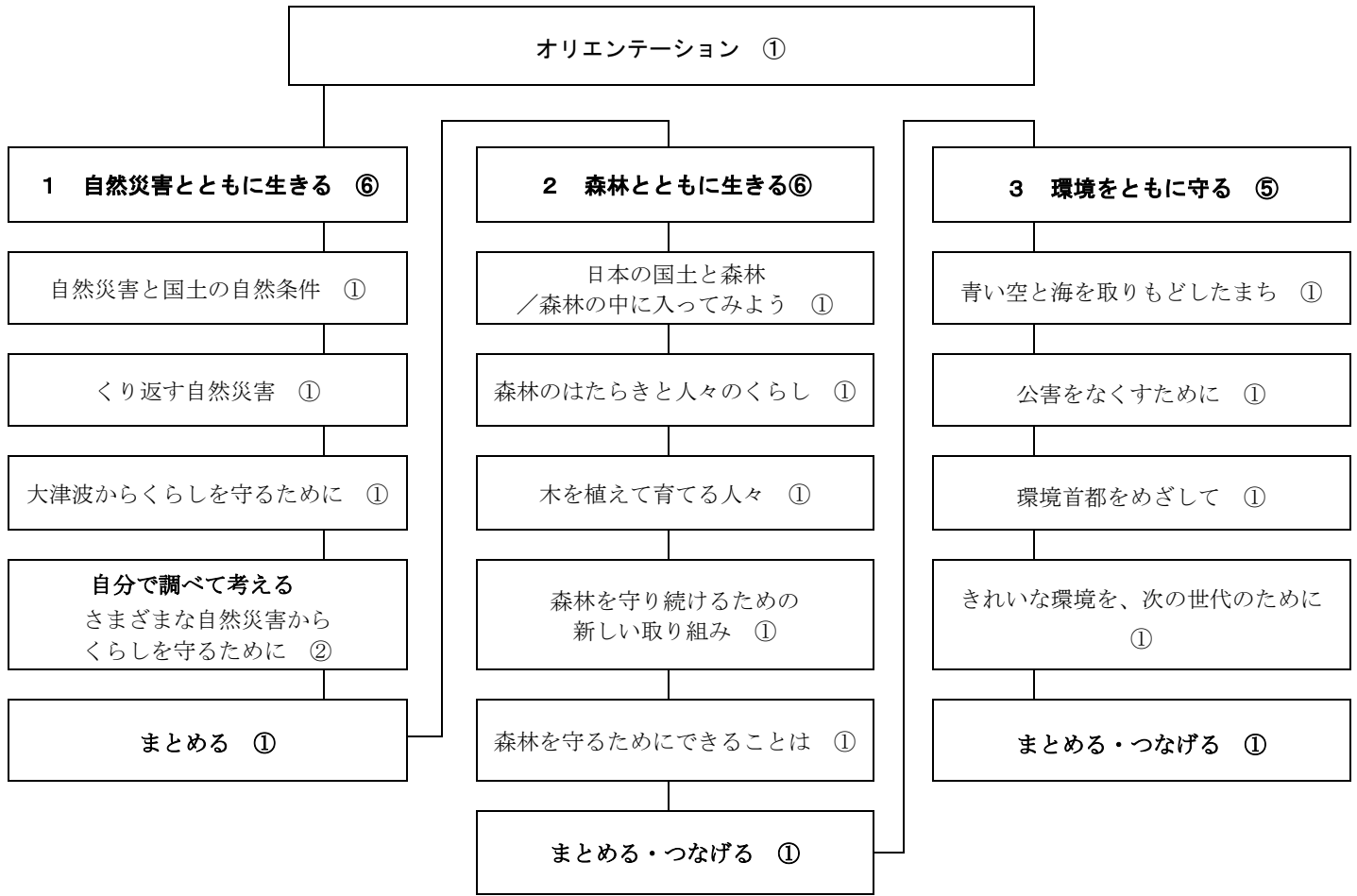
大単元 5	国土の自然とともに生きる	配当時間 18 時間	教科書 5 P208～247
-------	--------------	------------	-------------------

目 標

- 我が国の国土の自然環境について、国民生活との関連を踏まえて理解するとともに、地図帳や統計などの各種の基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- 国土の自然災害と自然条件との関連や、森林資源が果たす役割、公害防止の取り組みとその働きを多角的に考える力、国土の環境保全に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力、考えたことや選択・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- 我が国の国土の自然環境と国民生活との関連について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、我が国の国土に対する愛情、我が国の将来を担う国民としての自覚を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・自然災害は国土の自然条件などに関連して発生していることや、自然災害から国土を保全し国民生活を守るために国や県などが様々な対策や事業を進めていることを理解している。 ・森林は、その育成や保護に従事している人々の様々な工夫と努力により国土の保全など重要な役割を果たしていることを理解している。 ・関係機関や地域の人々の様々な努力により公害の防止や生活環境の改善が図られてきたことを理解するとともに、公害から国土の環境や国民の健康な生活を守ることの大切さを理解している。 ・地図帳や各種の資料で調べ、まとめている。	・災害の種類や発生の位置や時期、防災対策などに着目して、国土の自然災害の状況を捉え、自然条件との関連を考え、表現している。 ・森林資源の分布や働きなどに着目して、国土の環境を捉え、森林資源が果たす役割を考え、表現している。 ・公害の発生時期や経過、人々の協力や努力などに着目して、公害防止の取り組みを捉え、その働きを考え、表現している。	・我が国の国土の自然環境と国民生活との関連について、主体的に問題解決しようとしたり、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとしたりしている。



○の中の数字は、配當時数。

小単元 1	自然災害とともに生きる	配当時間 6 時間	教科書 5 P210～221
-------	-------------	-----------	-------------------

目 標

- 自然災害は国土の自然条件などに関連して発生していることや、自然災害から国土を保全し国民生活を守るために国や県などが様々な対策や事業を進めていることを理解するとともに、地図帳や統計などの各種の基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- 国土の自然災害の発生と自然条件との関連、防災や減災に向けた対策や事業の役割について多角的に考える力、考えたことを説明する力を養う。
- 国土の自然災害の状況と国民生活との関連について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・災害の種類や発生の位置や時期、防災対策などについて、地図帳や統計などで調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、国土の自然災害の状況を理解している。 ・調べたことを文や表などにまとめ、自然災害は国土の自然条件などに関連して発生していることや、自然災害から国土を保全し国民生活を守るために国や県などが様々な対策や事業を進めていることを理解している。	・災害の種類や発生の位置や時期、防災対策などに着目して、問いを見だし、国土の自然災害の状況について考え表現している。 ・様々な種類の自然災害の発生や対策を関連づけたり総合したりして、国土の自然災害の発生と自然条件との関連や、防災や減災に向けた対策や事業の役割について考え、適切に表現している。	・国土の自然災害の状況と国民生活との関連について、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。 ・学習したことをもとに、自分たちがどのように自然災害と向き合っていけばよいか、考えようとしている。

大単元名：5 国土の自然とともに生きる 【配当1時間】

【態】＝主体的に学習に取り組む態度、【知技】＝知識・技能、【思判表】＝思考・判断・表現
(発)＝発言・発表、(行)＝行動観察、(ノ)＝ノート・作品、(テ)＝テスト

ページ	本時のねらい	○主な学習活動／◆学習内容	本時の学習活動	評価規準/評価方法
＜オリエンテーション＞ 国土の自然がもたらすもの P208～209 【配時1】	国土の多様な自然環境を見つめ直し、その中で発生する自然災害や環境問題について関心をもつ。	○既習事項を振り返りながら、国土の自然環境の様子を複数の写真から読み取り、気づいた点を話し合う。 ◆日本の国土では豊かな自然環境が各地で見られること。その一方で、暮らしや産業が自然災害によって脅かされたり、環境が損なわれたりする局面があること。	①日本各地の豊かな自然の写真を見て感想を発表し合う。 ②これまでの学習を振り返り、自然条件に特色のある地域の様子や、自然環境と産業とのつながりについて思い出したことを発表し合う。 ③自然災害や環境問題を示す写真を見て、豊かな自然の写真と比べながら気づいたことや知りたいことを話し合う。	【知技】国土の豊かな自然環境の写真と、様々な自然災害や環境問題を示す写真を対比させながら読み取り、気づいた点などを挙げている。 (発)(行)

小単元名：1 自然災害とともに生きる 【配当6時間】

【態】＝主体的に学習に取り組む態度、【知技】＝知識・技能、【思判表】＝思考・判断・表現
(発)＝発言・発表、(行)＝行動観察、(ノ)＝ノート・作品、(テ)＝テスト

ページ	本時のねらい	○主な学習活動／◆学習内容	本時の学習活動	評価規準/評価方法
自然災害と国土の自然条件 P210～211 【配時1】	日本で発生した自然災害の種類や被害の様子、発生場所に注目して、様々な自然災害の発生と国土の自然条件との関係や、自然災害が国民の生活に及ぼす影響について捉える。	○近年発生した自然災害に関する写真や地図などの資料を読み取り、自然災害の発生と国土の自然条件との関係について話し合う。 ◆日本の国土では、各地の地形や気候の特色によって、土砂崩れや川のはんらん、雪害など、様々な自然災害が発生すること。大規模な災害が発生すると、広範囲に渡って人々の生活に大きな影響を及ぼすこと。	①様々な自然災害の写真を、災害の種類や被害の様子に着目して読み取り、気づいたことを話し合う。 ②それぞれの自然災害の発生場所を地図資料から読み取り、白地図やノートなどに整理する。 ③日本で自然災害が多く発生する理由について、国土の気候や地形の特色と関連づけて考え、話し合う。	【知技】自然災害の種類ごとに、被害の様子や発生場所を資料からの確に読み取り、自然災害の広がりや国土の自然条件との関連性を捉えている。(発)(ノ)
くり返す自然災害 P212～213 【配時1】	日本で発生した自然災害の発生回数や時期に着目して、日本の国土では大規模な自然災害が繰り返し発生していることを理解する。その被害を防ぐ取り組みについての学習問題をつくり、追究の見通しをもつ。	○日本の自然災害の年表などを読み取り、過去の発生状況からわかったことや考えたことを整理し、学習問題をつくる。 ◆日本の各地で、大規模な自然災害が繰り返し発生し、たびたび大きな被害に見舞われてきたこと。	①三陸地方で発生した津波被害について、昔と今の写真を比べて気づいたことを話し合う。 ②各種の自然災害の年表を、災害の種類と発生回数・時期に着目して読み取り、わかったことをノートなどに整理する。 ③調べたことや地震予測図などの資料をもとに、今後発生しうる自然災害について予想し、心配なことや必要な対策について話し合う。 ④これまでの学習をもとに、さらに調べたいことを話し合い整理し、学習問題をつくる。	【思判表】日本の各地で様々な自然災害が繰り返し発生していることを捉え、大規模な自然災害への対策についての学習問題をつくり、表現している。(発)(ノ) 【態】学習問題について予想し、それをもとに学習計画を考え、主体的に追究しようとしている。(発)(ノ)
学習問題 自然災害が多い日本では、大規模な自然災害から暮らしを守るために、どのような取り組みを進めているのだろう。				
			⑤学習問題についての予想や学習計画を話し合う。	

大津波からくらしを守るために P214～215 【配時1】	各地の津波への対策に着目して、国や都道府県が中心となって進める対策や事業の役割を捉える。	○国や都道府県などが進める津波への対策について具体例を見つけて調べ、わかったことや考えたことを話し合う。 ◆国や都道府県が中心となって、津波から人々の命や生活を守るための施設の建設や仕組みづくりを計画的に進めていること。	①国や都道府県などで進めている津波への対策について、教科書や資料集などから具体例を見つけて調べ、ノートなどに整理する。 ②大きな防潮堤でも津波を防ぎきれなかった例、津波に強いまちづくりの例を資料から読み取り、感想やわかったことをノートなどに整理する。 ③整理したことをもとに、今後想定される津波を見据えてどのような対策をとっていけばよいか、それに伴う課題とともに考え、話し合う。	【知技】津波の被害を防ぐ取り組みについて複数の資料から読み取り、今後の発生が想定される津波の被害を少なくするために、国や都道府県が中心となって、様々な対策や事業に取り組んでいることを捉えている。(発)(ノ)
＜自分で調べて考える＞さまざまな自然災害からくらしを守るために P216～220 【配時2】	様々な自然災害への対策に着目して、暮らしを守るために、どのような対策が進められているかを調べる。	○国や都道府県などが進める自然災害への対策について具体例を見つけて調べ、わかったことや考えたことを話し合う。 ◆地震・風水害・土砂災害・雪害・火山災害などの自然災害から、人々の命や生活を守るために、国や都道府県、市町村が協力して計画的に防災対策を進めていること。	①日本で発生する自然災害について、資料をもとに振り返る。〈協働〉 ②地震・風水害・土砂災害・雪害・火山災害などの自然災害について、それぞれ誰が、何を目的として、どのような対策を進めているか、資料から読み取る。〈個別〉 ③それぞれの災害対策に共通する点を考える。〈協働〉 ④自然災害への対策について、わかったこと・考えたことをノートに整理し、意見を交換する。〈協働〉	【知技】様々な自然災害への対策について複数の資料から読み取り、今後発生が想定される自然災害の被害を少なくするために、国や都道府県が中心となって、様々な対策や事業に取り組んでいることを捉えている。(発)(ノ)
＜まとめる＞ P221 【配時1】	調べたことを整理して、自然災害と国土の自然条件との関係、国や都道府県などの災害への対策・事業の役割について理解し、自然災害が発生しやすい国土に暮らす一人としての考えをもつ。	○調べたことを自然災害の種類別に表に整理し、相互の事実を関連づけながら、災害が発生しやすい国土の自然条件、災害への対策・事業と自分たちの生活との関わりなどについて考える。 ◆日本の国土では、その自然条件の特色から様々な自然災害が繰り返し発生するため、国や都道府県などが中心となり、国民生活の安全を守る様々な取り組みを計画的に進めてきたこと。自然災害が多い国土に暮らす一人として、各自が防災・減災への意識をもち、災害に備えておくことが大切であること。	①これまでの学習を振り返り、自然災害の種類ごとに、発生場所や関連する国土の自然条件、対策・事業の例を表に整理する。 ②整理した表を横に見て自然災害の発生と自然条件を関連づけたり、表を縦に見て様々な対策・事業を総合したりして、気づいたことや考えたことを話し合う。 ③自然災害と向き合って暮らしていくうえで大切だと思うこと、自分で取り組んでいきたいことを話し合い、最終的な自分の考えをまとめる。	【思判表】自然災害と国土の自然条件を関連づけたり、自然災害の被害と国民生活を関連づけたりして、自然災害への対策・事業の重要性や、自然災害が多い国土で暮らす一人として取り組むべきことを考え、適切に表現している。(発)(ノ) 【態】今まで学習したことを生かし、自分たちがどのように自然災害と向き合っていけばよいか、自分の考えをまとめようとしている。(発)(ノ)

小单元 2	森林とともに生きる	配当時間 6 時間	教科書 5 P222～235
-------	-----------	-----------	-------------------

目 標

- 森林は、その育成や保護に従事している人々の様々な工夫と努力によって守られ、国土の保全など重要な役割を果たしていることを理解するとともに、地図帳や統計などの各種の基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- 森林資源が果たす役割を多角的に考える力、森林保全に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力、考えたことや選択・判断したことを説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。
- 国土の森林資源と国民生活との関連について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、我が国の国土に対する愛情、我が国の将来を担う国民としての自覚を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・森林資源の分布やはたらきなどについて、地図帳や統計などで調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、国土の環境を理解している。 ・調べたことを文や図表などにまとめ、森林は、その育成や保護に従事している人々の様々な工夫と努力によって守られ、国土の保全など重要な役割を果たしていることを理解している。	・森林資源の分布やはたらきなどに着目して、問いを見いだし、国土の環境について考え表現している。 ・森林と人々の生活との密接なつながりを捉え、大切な森林のはたらき、または森林の育成と活用の取り組みを選択・判断し、適切に表現している。	・国土の森林資源と国民生活との関連について、予想や学習計画を立て、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。 ・学習したことをもとに、森林資源が果たす役割や、森林の育成・活用のために特に大切だと思う取り組みを考えようとしている。

小単元名：2 森林とともに生きる 【配当6時間】

【態】＝主体的に学習に取り組む態度、【知技】＝知識・技能、【思判表】＝思考・判断・表現
(発)＝発言・発表、(行)＝行動観察、(ノ)＝ノート・作品、(テ)＝テスト

ページ	本時のねらい	○主な学習活動／◆学習内容	本時の学習活動	評価規準/評価方法
日本の国土と森林／森林の中に入ってみよう P222～225 【配時1】	日本の国土の森林資源の分布、防災機能を果たす森林整備の取り組みに着目して、森林と人々の生活との関わりについての学習問題をつくり、追究の見通しをもつ。	○国土の森林や森林整備に関する資料を読み取り、気づいたことや考えたことを整理し、学習問題をつくる。 ◆日本の国土の7割近くが森林であること。森林には自然災害の被害を軽減するはたらきがあり、森林の整備や育成を進める取り組みがあること。	①国土に広がる森林の様子を示す写真やグラフを読み取り、気づいたことを発表し合う。 ②日本で発生する自然災害の種類を振り返りながら、自然災害と森林との関係を示す資料を読み取り、気づいたことを話し合う。 ③これまでの気づきや疑問をもとに、調べたいことを話し合っ て整理し、学習問題をつくる。予想や学習計画を話し合う。	【思判表】国土に占める森林の多さや、森林が防災面で果たす役割を資料から読み取り、それをもとに森林と自分たちの生活との関わりについて学習問題をつくり、表現している。(発)(ノ) 【態】森林と自分たちの生活との関わりについて予想し、それをもとに学習計画を立て、主体的に追究しようとしている。(発)(ノ)
	学習問題 森林の多い国土とわたしたちの暮らしには、どのような関わりがあるのだろう。			
森林のはたらきと人々の暮らし P226～227 【配時1】	森林の多い地域の生活の様子や、森林がある場合とない場合の違いに着目して、様々な森林のはたらきを調べ、人と森林との関わりを捉える。	○森林に囲まれた地域の人々の様子がわかる資料や、森林がある場合とない場合を比較するイラストを読み取り、森林のはたらきについて考えたことを話し合う。 ◆森林には、木材となる、安らぎを与える、雨水を蓄える、などのはたらきがあり、自分たちの生活を支えていること。	①森林との関わりが深い高知県の様子について、写真やグラフなどを読み取り、気づいたことを話し合う。 ②森林がある場合とない場合のイラストを比較したり、森林に詳しい人の話を読み取ったりして、わかったことをノートなどに整理する。 ③自分たちの森林での経験や身近にある木製品なども思い出しながら、森林のはたらきについて考え、話し合う。	【知技】複数の資料から必要な情報を読み取り、様々な森林のはたらきを挙げている。 (発)(ノ)
木を植えて育てる人々 P228～229 【配時1】	人工林の育成の流れや林業従事者の数の変化に着目して、森林を守り育てる人々の工夫や努力、林業が抱える課題を捉える。	○人工林の手入れや林業の現状について、写真資料や林業を営む人の話などから調べ、わかったことや気になったことを話し合う。 ◆人の手で植えられた人工林は、長い年月をかけて管理する必要があること。林業を営む人々の工夫や努力によって森林が管理されている一方、林業で働く人が減ってきていること。	①手入れがされていない人工林と、されている人工林の写真を比べ、気づいたことを話し合う。 ②林業を営む人の話や、森林の育成の流れを示す資料を読み取り、わかったことをノートなどに整理する。 ③林業が抱えている課題を資料から見つけ、気になったことを話し合う。	【知技】森林を守り育てる人々の工夫や努力、林業が抱える課題について、複数の資料からの的確に読み取っている。(発)(ノ)

森林を守り続けるための新しい取り組み P230～231 【配時1】	林業の活性化をめざす取り組みに着目して、森林を守り続けるために大切なことを捉える。	○林業に関わる新しい取り組みの例を各種資料から読み取り、その意味について話し合う。 ◆国土の森林を守り続けていくために、森林の手入れを行う人を増やしたり、国産木材の新たな活用法を考えたりする取り組みが進んでいること。作業や費用の負担を軽くする、新たな林業の方法を追求する人たちがいること。	①木材使用量の変化をグラフから読み取り、前時の学習の振り返りとあわせて、林業が抱えている課題を確かめる。 ②課題の解決につながりそうな取り組みを、教科書の資料から見つけ、ノートなどに整理する。 ③整理したことをもとに、それぞれの取り組みの意味について考え、話し合う。	【知技】人工林の手入れが適切に行われるよう、林業を始める人を増やす取り組みや、国産木材を活用する取り組みが進められていることを捉えている。(発)(ノ)
森林を守るためにできることは P232～233 【配時1】	森林の育成・活用につながる様々な取り組みや、森林と生活との結びつきに着目して、森林を保全することの意味について捉える。	○森林保全の取り組みの具体例を各種資料から読み取り、考えたことを話し合う。最後に、森林と自分たちの生活とのつながりについて考える。 ◆植林活動や国産木材の活用を広げる製品の開発など、森林の育成・活用につながる活動が、日本各地に広がっていること。森林の保全は、国土や地球の環境保全、生活や産業の安定にもつながっていること。	①様々な立場の人々による、森林を守るための取り組みを教科書や資料集などから見つけ、ノートなどに整理する。 ②整理したことをもとに、それぞれの取り組みの意味や、関わる人たちの思いを考え、話し合う。 ③森林のはたらきが自分たちの生活に及ぼす影響について考え、話し合う。	【知技】森林の育成・活用につながる取り組みに様々な立場の人々が関わっていること、生活や産業の様々な場面で森林とのつながりが見られることを捉えている。(発)(ノ)
<まとめる> <つなげる> P234～235 【配時1】	調べたことを整理して、森林には様々なはたらきがあり、人々の生活と深く結びついていることを理解する。自分たちの暮らしと森林との関わりの中で大切だと思うことを考える。	○森林のはたらきや森林を守る人々の取り組みを図などに整理し、森林と自分たちの生活との関わりや、自分たちに協力できそうなことを考える。 ◆森林には、人々の生活に大きな恩恵をもたらす様々なはたらきがあること。森林資源を未来に残していけるよう、国土に暮らす一人ひとりが協力して取り組むことが大切であること。	①これまでの学習を振り返り、森林が人々の生活にもたらすこと、人々が森林を守るために取り組んでいることを関係図に整理する。 ②関係図を見ながら、森林と自分たちの生活にはどのような関わりがあるか考え、話し合う。 ③自分たちの暮らしと森林との関わりの中で、特に大切だと思う森林のはたらき、または森林の育成と活用の取り組みを一つ選び、理由と自分たちにできることを考え、意見交流する。	【思判表】調べたことを整理して森林と人々の生活との密接なつながりを捉え、大切な森林のはたらき、または森林の育成と活用の取り組みを選択・判断し、意見を適切に伝え合っている。(発)(ノ) 【態】これまでの学習を生かして、大切だと思う森林のはたらき、または森林の育成と活用の取り組みを選択・判断しようとしている。(発)(ノ)

小单元 3	環境をともに守る	配当時間 5 時間	教科書 5 P236～245
-------	----------	-----------	-------------------

目 標

- 関係機関や地域の人々の様々な努力により公害の防止や生活環境の改善が図られてきたことや、公害から国土の環境や国民の健康な生活を守ることの大切さを理解するとともに、写真や年表などの各種の基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- 公害防止の取り組みの働きを多角的に考える力、環境保全に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力、考えたことや選択・判断したことを説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。
- 国土の環境と国民生活との関連について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、我が国の国土に対する愛情、我が国の将来を担う国民としての自覚を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 公害の発生時期や経過、人々の協力や努力などについて、写真や年表などで調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、公害防止の取り組みを理解している。 ・ 調べたことを文や図表などにまとめ、関係機関や地域の人々の様々な努力により公害の防止や生活環境の改善が図られてきたことを理解するとともに、公害から国土の環境や国民の健康な生活を守ることの大切さを理解している。	・ 公害の発生時期や経過、人々の協力や努力などに着目して、問いを見だし、公害防止の取り組みについて考え表現している。 ・ 公害に対する様々な立場での取り組みを関連づけたり総合したりして公害防止の取り組みの働きを考えたり、学習したことをもとに、環境を守るために忘れてはならないことや特に大切な取り組みを選択・判断したりして、適切に表現している。	・ 国土の環境と国民生活との関連について、予想や学習計画を立て、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。 ・ 学習したことをもとに、環境を守るために忘れてはならないことや特に大切な取り組みについて、考えようとしている。

小单元名：3 環境をともに守る 【配当5時間】

【態】＝主体的に学習に取り組む態度、【知技】＝知識・技能、【思判表】＝思考・判断・表現
(発)＝発言・発表、(行)＝行動観察、(ノ)＝ノート・作品、(テ)＝テスト

ページ	本時のねらい	○主な学習活動／◆学習内容	本時の学習活動	評価規準/評価方法
青い空と海を取りもどしたまち P236～237 【配時1】	福岡県北九州市の空や海の変化の様子や、その変化が人々にもたらした影響に着目して、生活環境を守るための取り組みについての学習問題をつくり、追究の見通しをもつ。	○1960年頃と現在の北九州市の写真と比較したり、空や海が汚れていた当時の人々の様子を資料から読み取ったりして、気づいたことや疑問に思うことを整理し、学習問題をつくる。 ◆かつて、北九州市の空や海は汚れていて、人々の生活にも影響を及ぼしていたが、現在ではきれいな環境に戻っていること。	①1960年頃と現在の北九州市の写真比べて、気づいたことを話し合い、海や空が汚れた原因を予想する。 ②空や海の汚れが当時の人々の生活にもたらした影響について、写真などの資料を読み取り、気づいたことを話し合う。 ③これまでの気づきや疑問をもとに、調べたいことを話し合ってから整理し、学習問題をつくる。予想や学習計画を話し合う。	【思判表】北九州市の環境の変化について資料から読み取ったことをもとに、生活環境を守る取り組みについての学習問題をつくり、表現している。(発)(ノ) 【態】北九州市の環境を守る取り組みについて予想し、それをもとに学習計画を立て、主体的に追究しようとしている。(発)(ノ)
学習問題 環境を改善するために、北九州市の人々はどのような取り組みをしてきたのだろう。				
公害をなくすために P238～239 【配時1】	公害の発生時期や、公害をなくすための市民・市・工場の取り組みに着目して、それぞれの果たした役割と互いの協力関係について捉える。	○公害発生時の写真や年表などの資料をもとに、公害のもたらす影響や公害をなくすための努力について調べ、市民・市・工場の果たした役割や互いの関係について話し合う。 ◆市民が公害の被害を調査し、公害防止を呼びかけたことで、市や工場が公害を防ぐ取り組みを始め、長年にわたる努力によってきれいな環境がよみがえったこと。	①公害が発生した頃の工業生産の様子や、公害の発生が人々の生活にもたらした影響を関連資料から読み取る。 ②北九州市で公害をなくす運動に参加した人の話を読み、市民が公害をなくすためにどのような取り組みをしたのかを話し合う。 ③写真や年表などの資料を読み取り、市民・市・工場が公害をなくすために果たした役割をノートなどに整理し、互いの関係についてわかったことを話し合う。	【知技】市民・市・工場それぞれが公害をなくすために果たした役割を資料から的確に読み取り、地域で一体となって努力を重ねたことが環境の改善につながったことを捉えている。(発)(ノ)
環境首都をめざして P240～241 【配時1】	現在の北九州市の環境を守る取り組みに着目して、市では公害を克服した後も環境の改善に努めていることを捉える。	○北九州市の環境を守るための取り組みについて複数の資料から読み取り、こうした取り組みを続けている理由などを考えて話し合う。 ◆北九州市では、過去の公害の経験を忘れず、地域だけでなく世界全体の環境改善のために、様々な取り組みを現在も続けていること。	①写真や年表などの資料を読み取り、公害を克服した後の北九州市で行われてきた、環境改善や国際協力の取り組みについてノートなどに整理する。 ②北九州エコタウンでのリサイクルやエネルギー活用の様子を写真資料などから読み取り、気づいたことを話し合う。 ③公害を克服したあとも、北九州市が環境を守る取り組みを続けている理由について考え、話し合う。	【知技】北九州市では、過去の公害の経験を忘れず、環境を守る様々な取り組みを現在も続けていることを捉えている。(発)(ノ)

きれいな環境を、次の世代のために P242～243 【配時1】	現在の北九州市民の環境保全活動や、自然環境と生活との結びつきに着目して、生活環境を守ることをの意味について捉える。	○市民の環境保全活動の具体例や、自然環境と人々の生活との結びつきについて各種資料から読み取り、自然環境を守ることと自分たちの健康な生活との関係について考え、話し合う。 ◆北九州市では、市民も協力して環境保全に努めていること。自分たちの生活と自然環境は密接に結びついており、人間の行いによってはその関係が崩れ、生活にも大きな被害が出ること。	①北九州市の市民が取り組んでいる環境保全活動の様子について、写真などの資料を読み取ってわかったことをノートなどに整理する。 ②イラスト「自然環境とわたしたちのくらしとの結びつき」を読み取り、矢印で結ばれた関係の意味や、その関係が損なわれた場合の影響について話し合う。 ③イラストを読み取って話し合ったことをふまえ、北九州市の市民が続けている環境保全活動の意味や、自分たちの今後の生活のあり方について考え、話し合う。	【知技】自然環境と生活との結びつきを複数の資料から的確に読み取り、健康に過ごせる環境を守り続けていくためには、その中で暮らす一人ひとりの協力が大切であることを捉えている。(発)(ノ)
＜まとめる＞ ＜つなげる＞ P244～245 【配時1】	調べたことを整理して、公害防止や環境保全の取り組みの重要性を理解し、環境を守るために忘れてはならないと思うこと、特に大切だと思う取り組みを選択・判断する。	○公害防止や環境改善の取り組みなどを関係図に整理し、そこに見られる共通点などを話し合いながら、環境保全のために大切なことを考える。 ◆公害を発生させず、健康に過ごせる環境を未来に残していくには、様々な立場の人々が自分たちにできる取り組みを続けていくことが大切であること。	①北九州市の市民・市・工場それぞれの公害をなくすための取り組み、公害克服後の取り組みを関係図に整理し、互いの関連や共通する目的について、考えたことを話し合う。 ②環境を守るために忘れてはならないと思うこと、特に大切だと思う取り組みを一つ選び、理由と自分たちにできることを考え、意見交流する。 ③p.6～7を参考に、これまでの学習の進め方を振り返り、より確かな問題解決のための学習の進め方について話し合う。	【思判表】調べたことを整理して公害防止や環境改善の取り組みの重要性を捉え、環境を守るために忘れてはならないと思うこと、特に大切だと思う取り組みを選択・判断している。(発)(ノ) 【態】これまでの学習を生かして、環境を守るために忘れてはならないと思うこと、特に大切だと思う取り組みを選択・判断しようとしている。(発)(ノ)